

開講年度 (2024.4月-2025.3月) / Academic Year: (April 2024 - March 2025)

科目番号 / Course Number :

講義名[日本語(英語)] / Class Name : Selected Topics in Policy Studies(Fiscal and Monetary Policy in a Changing World)

担当者 (フルネーム) / Course instructor (Full Name) : 黒田 東彦 KURODA Haruhiko

学期・曜日・時限 / Term・Day・Period : 春後期 Spring (Session II)火 Tue/4 火 Tue/5

単位数/ Credits : 2

1. 本講義の概要及び到達目標 :

This course will provide an overview on the fiscal and monetary policy making in a changing world. In G7 countries, fiscal policy is decided by the government to supply public goods, adjust business cycles and make income redistribution, while monetary policy is managed by the central bank which is independent from the government to achieve price stability. In the developing countries, frequently, the central bank is under the government control, and economic development is the first priority of the government. Also, their economies tend to be affected by the fiscal and monetary policy of G7 countries. In this regard, economic cooperation between G7 countries and developing countries is of vital importance. Students are required to understand how fiscal and monetary policy is made in G7 countries and to master the management skills for fiscal and monetary policy in developing countries under their economies being affected by G7 fiscal and monetary policies.

2. 各授業のテーマ :

Each class has two class periods (twice of one hour and half class period)

15:00~16:30、16:40~18:10

June 4: Introduction (15:00~16:30)

June 11: Fiscal and monetary policy in G7 countries

Fiscal and monetary policy in developing countries

June 18: Spillover effects of G7 fiscal and monetary policies on developing economies

Reaction by developing countries

June 25: Economic cooperation between G7 countries and developing countries promoted by IMF and MDBs

Economic cooperation between G7 countries and developing countries through G20

July 2: Difficulty of fiscal policy cooperation among G7 countries

Difficulty of fiscal policy cooperation between G7 countries and developing countries

July 9: What is BIS, and how BIS is different from IMF

Monetary policy cooperation through BIS?

July 16: Fragmentation in global economies; its causes and future

Fiscal and monetary policy in the fragmented world economy

July 23: Final assessment of fiscal and monetary policy in a changing world

What kind of efforts are required to improve the situation

[Out-of-class Learning]

Please read the textbook beforehand and acquire the basic knowledge of macroeconomics.

Students are required to submit a paper after the class. Please share your thoughts.

3. 成績の評価方法：

60% for written examination or paper submission, 40% for contribution to the class

【Final Grades】

Student's achievement of the Course Goal is:

Outstanding: A

Superior : B

Satisfactory : C

Minimum acceptable :D

Below the acceptable level:E

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)：

WEOs by IMF, Communiques of G20

5. 講義で使用するソフトウェア：

Knowledge of basic macroeconomics will be required

6. 聴講の可否：

否 Not Allow

7. 履修上の注意：

開講年度 (2024.4 月-2025.3 月) / Academic Year: (April 2024 - March 2025)

科目番号 / Course Number : DEV2140J

講義名[日本語(英語)] / Class Name : 景観・デザイン論

担当者 (フルネーム) / Course instructor (Full Name) : 福井 恒明 FUKUI Tsuneaki

学期・曜日・時限 / Term・Day・Period : 春後期 Spring (Session II)金 Fri/5 金 Fri/6

単位数/ Credits : 2

1. 本講義の概要及び到達目標 :

本講義では、国土や地域に関する景観論や公共事業を中心としたデザインの考え方を取り扱う。基本的な概念を確認したのちに、いくつかのテーマについてグループディスカッションにより論点を整理する。それらにより今後の都市・建築・環境などの分野における景観とデザインの考え方を修得すると共に、自分の専門分野との関係を確認する。

本講義の到達目標は次の3点である。(1)景観論を構成する基本的な概念を説明できる。(2)地域景観形成や公共事業デザインの分野における良好な事例を知り、評価の考え方を説明できる。(3)公共事業デザインにおける良好なデザインがどのように実現しているかを理解し、その概要を説明できる。関連する DP は、インフラ政策コース①②③である。

本講義は、SDGs の目標 11 (住み続けられるまちづくりを) に関連する。

2. 各授業のテーマ :

1. イントロダクション／景観・デザインの範疇

予習：なし 復習：教科書を入手し、全体の内容を概観する

2. 景観のとらえ方

予習：教科書の該当箇所を確認する。 復習：講義資料を確認する

3. 景観に関する規範

予習：なし 復習：講義資料を確認し、関連情報の検索等で理解を深める

4. グループディスカッション 1

予習：指示に基づきグループディスカッションの準備を行う 復習：グループディスカッションの結果をまとめる

5. 景観の価値観

予習：なし 復習：講義資料を確認し、関連情報の検索等で理解を深める

6. グループディスカッション 2

予習：指示に基づきグループディスカッションの準備を行う 復習：グループディスカッションの結果をまとめる

7. 景観の歴史観／近年の景観政策

予習：なし 復習：講義資料を確認し、関連情報の検索等で理解を深める

8. グループディスカッション 3／形を決める論理 1

予習：指示に基づきグループディスカッションの準備を行う 復習：グループディスカッションの結果をまとめる

9.形を決める論理 2

予習：なし 復習：講義資料を確認し、関連情報の検索等で理解を深める

10.グループディスカッション 3

予習：指示に基づきグループディスカッションの準備を行う 復習：グループディスカッションの結果をまとめる

11.デザイン事例紹介

予習：なし 復習：講義資料を確認し、関連情報の検索等で理解を深める

12.デザイン事例紹介（現地見学会）

予習：なし 復習：現地見学の結果について、資料と照らし合わせて理解を深める

13.デザイン事例紹介（現地見学会）

（同上）

14.グループディスカッション 4

予習：指示に基づきグループディスカッションの準備を行う 復習：なし

15.グループディスカッション 4 プレゼンテーション

予習：なし 復習：グループディスカッションの結果ならびに講師コメントに基づきプレゼンテーションの振り返りを行う

2コマ連続講義のうち、1コマ目は説明、2コマ目はグループディスカッションとその発表で実施することを基本とする。グループディスカッションは1グループ4名程度で実施する

3. 成績の評価方法：

グループディスカッション1～3の成果に関する小レポート、現地見学会に関する小レポートの内容をそれぞれ15%で評価する。またグループディスカッション4のプレゼンテーションを20%、レポート20%で評価する。合計50%以上取得したものに単位を与え、全体の約3割をA評価とする。レポートは講義内容を理解した上で自らの意見を論理的に説明しているかどうかを評価する。プレゼンテーションは内容の論理性と発表内容の伝わりやすさを評価する。

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)：

4-1：必携のテキスト

佐々木葉「景観とデザイン」オーム社、2015

4-2：その他

福井恒明・佐々木葉ほか「土木デザイン ひと・まち・自然をつなぐ仕事」学芸出版社、2022

篠原修編「景観用語事典 増補改訂第二版」彰国社、2021

篠原修「土木デザイン論」東京大学出版会、2003

Hideo NAKAMURA, Kotaro NAGASAWA, et.al., "Principles of Infrastructure: Case Studies and Best Practices", Asian Development Bank Institute, 2019

5. 講義で使用するソフトウェア：

6. 聴講の可否：

可 Allow

7. 履修上の注意：

(11)(12)(13)は同日に行い，講義時間帯は 5-7 限で実施する．

開講年度 (2024.4 月-2025.3 月) / Academic Year: (April 2024 - March 2025)

科目番号 / Course Number : DRM2010J

講義名[日本語(英語)] / Class Name : 災害リスクマネジメント

担当者 (フルネーム) / Course instructor (Full Name) : 片山 耕治 KATAYAMA Koji

学期・曜日・時限 / Term・Day・Period : 春後、夏 Spring (Session II), Summer 火 Tue/1

単位数/ Credits : 2

1. 本講義の概要及び到達目標 :

【講義の概要】学生が、災害リスク軽減に関する政策の実施と立案能力を身につけるため、国内外の防災活動や災害、リスクや関連政策に関する基礎的な理解を深めたうえで、春学期には予防防災、減災、応急対応、復旧・復興の各段階における政策、地震・津波防災上特に重要な建築・住宅・都市の防災対策、防災に取り組むための動機づけ等の概要について学習する。また、夏学期には山口修特別講師(MS&AD インターリスク総研株式会社)の担当により、事業継続計画(BCP)の概要とグループワークによる BCP 策定ならびに見直しのプロセス等を学習する。こうした学習を通じて、学生は、防災・危機管理に関して総合的な専門知識、関連政策の企画や実践にかかる能力を得ることを目標とする。

関連する DP は、防災・危機管理コースディプロマポリシー①, ②, ③, ④

【到達目標】

- ・(1) 建築・住宅・都市の防災対策、防災に取り組むための動機づけ等の概要について理解し、論理的に説明することができる。
- ・(2) 事業継続計画の概要、策定及び見直しのプロセスを理解し、論理的に説明できる。

2. 各授業のテーマ :

- 第 1 回:世界と日本の災害
- 第 2 回:災害リスクマネジメント概論
- 第 3 回:東日本大震災の教訓
- 第 4 回:阪神・淡路大震災の教訓
- 第 5 回:都市防災政策
- 第 6 回:建築防災政策
- 第 7 回:建築物の被害への対応
- 第 8 回:災害リスクマネジメントの展開
- 第 9 回:特別講義(国土交通省課長等の講義)
- 第 10 回:事業継続計画(BCP)の全体像
- 第 11 回:事業継続計画(BCP)の策定 (1)BCP 方針・目標の設定
- 第 12 回:事業継続計画(BCP)の策定 (2)BCP 戦略と事前対策の整理
- 第 13 回:事業継続計画(BCP)の策定 (3)緊急時体制・手順等計画の策定
- 第 14 回:事業継続計画(BCP)の策定 (4)見直しの仕組み構築(訓練体験会)
- 第 15 回:事業継続計画(BCP)の普及促進

【授業外学習】

・授業外学習として、各授業前に事前の配布資料を読み、各授業後に事業内容を復習し、ポイントを整理すること。

・第1から第8回、第9回から第15回目の内容について、それぞれレポートを1つずつ提出すること。

3. 成績の評価方法：

- ・クラスでの議論への参加 30%、レポート 70%で評価する。
- ・4回以上欠席した場合は成績評価の対象としない。

【成績評価基準】

- ・到達目標を達成していれば合格。
- ・合格を、到達目標の理解度と説明能力に応じて相対評価し、A、B、C、Dに判定。
- ・到達目標を達成していなければ不合格（E）。

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)：

4-1:必携のテキスト 毎回パワーポイントを事前配信し、場合により資料を追加配布。

4-2:その他

Cabinet Office, Disaster Management in Japan

http://www.bousai.go.jp/1info/pdf/saigaipamphlet_je.pdf

FEMA(2017)National Incident Management System

https://www.fema.gov/pdf/emergency/nims/NIMS_core.pdf

FEMA(2018)Introduction to the Incident Command System (ICS100) Instruction Guide

https://training.fema.gov/emiweb/is/is100he/instructor%20guide/ics100highered_ig.pdf

5. 講義で使用するソフトウェア：

Edge, Word, PowerPoint, Zoom

6. 聴講の可否：

可 Allow

7. 履修上の注意：

開講年度（2024.4月-2025.3月）/ Academic Year: (April 2024 - March 2025)

科目番号 / Course Number : DRM3030J

講義名[日本語(英語)] / Class Name : 消防防災減災・被災地学習

担当者（フルネーム）/ Course instructor (Full Name): 武田 文男, 室田 哲男 TAKEDA Fumio and MUROTA Tetsuo

学期・曜日・時限 / Term・Day・Period : 春後～秋 Spring (Session II) through Fall 金 Fri/4 金 Fri/4

単位数/ Credits : 2

1. 本講義の概要及び到達目標：

【本講義の概要】夏学期に実施予定の「被災地学習」においては、災害の発生した現地を訪れ、直接、被害の状況や被災地の取組み等を学ぶとともに、災害応急対策や復旧・復興対策等に携わる地域のキーパーソンの方々のお話を伺い、意見交換させていただく等により、被災地の現状、課題等について学習する。秋学期に実施する「消防防災減災」においては、災害危機管理の中核である消防や防災、減災に携わる関係機関の取組み等を学び、国民の生命・身体・財産を守るリーダーとしての政策能力を培うことを目指し、講義形式のほか、防災関係機関への訪問学習やワークショップを実施する。学生は、これらの学習を通じて防災に関する課題解決に向けた政策を提言、実行できる能力を身に着けることを目標とする。関連する DP は、防災・危機管理コースディプロマポリシー①②③であり、また、SDGs の目標 1、2、11、13（貧困、飢餓、まちづくり、気候変動）に関連する。

【到達目標】

- ・被災地の現状を理解し、復興や災害に強い地域づくりに関する政策を立案、実践することができる。
- ・防災関係機関と連携し、政策を実現することができる。
- ・災害に関する総合的な専門知識を持ち、課題解決に向けた政策を提言し、実行することができる。

2. 各授業のテーマ：

「被災地学習」については、8月下旬～9月上旬の2泊3日実施予定を目途に調整を行い、春学期後期の履修登録期間（6/3～12）までに具体的な日程、訪問先等を決定する。学生は、事前に、訪問する被災地の状況、課題等について予め調べ、被災地学習資料を準備すること、また、訪問後は、現地で学んだ被害の実態や具体的な課題、その解決に向けた考察、整理を行い、被災地学習報告書を作成すること。

「消防防災減災」については、秋学期／金／4において、

- 第 1 回： 消防防災減災概論
- 第 2 回： 救急業務
- 第 3 回： 内閣府（防災）への訪問学習
- 第 4 回： 総務省消防庁への訪問学習
- 第 5 回： 気象庁への訪問学習
- 第 6 回： 防衛省への訪問学習
- 第 7 回： 消防現場（麻布消防署）訪問学習

第 8 回： ワークショップ(1)～防災機関の連携協力～

第 9 回： ワークショップ(2)～防災実務と政策研究～

第 10 回： 消防防災減災の課題

を予定している（訪問学習先との調整等により、変更することがあり得る）。

学生は、消防防災減災の授業において、予習として、各回のテーマに関連する事項について予め調べしておくこと、また、復習として、授業中に学んだそれぞれの防災の取組みの特徴、ポイント、課題等を整理すること。

3. 成績の評価方法：

「被災地学習」に関する事前準備、現地における学習、事後の報告書作成の評価点を 50%、「消防防災減災」に関する試験またはレポートの評価点を 50%として算定する。

【成績評価基準】

- ・到達目標を達成していれば合格。
- ・合格を、消防防災減災・被災地学習についての理解度に応じて相対評価し、A、B、C、Dに判定。
- ・到達目標を達成していなければ不合格（E）。

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)：

「被災地学習」に必要な被災地学習資料及び被災地学習報告書は、教員の指導のもと、学生が作成する。「消防防災減災」においては、テーマに応じ資料を配付し、それをもとに授業を行う。なお、参考文献があれば、授業の中で適宜提示する。

(4-2:講義に関連する英語文献)

○「Overview of the 2022 White Paper on Fire Service」

The Fire and Disaster Management Agency

○「Disaster Management in Japan」

Director General for Disaster Management Cabinet Office, Government of Japan

5. 講義で使用するソフトウェア：

6. 聴講の可否：

否 Not Allow

7. 履修上の注意：

「消防防災減災・被災地学習」履修希望者は、春学期後期の履修登録期間（6/3～12）において履修登録する必要がある。すなわち、実際の被災地学習は夏学期に、消防防災減災は秋学期に行われるが、履修登録は、全体について、春学期後期の履修登録期間（6/3～12）において手続きをとること。なお、その際、被災地学習の具体的な日程、訪問先、留意事項等は、教育支援課プログラム運営担当（防災・危機管理コース担当）に確認すること。

担当者

TAKEDA Fumio/武田 文男, MUROTA Tetsuo/室田哲男

開講年度 (2024.4月-2025.3月) / Academic Year: (April 2024 - March 2025)

科目番号 / Course Number : ECO2000J

講義名[日本語(英語)] / Class Name : ミクロ経済学Ⅱ

担当者 (フルネーム) / Course instructor (Full Name) : 田中 誠 TANAKA Makoto

学期・曜日・時限 / Term・Day・Period : 春後期 Spring (Session II)金 Fri/3 金 Fri/4

単位数/ Credits : 2

1. 本講義の概要及び到達目標 :

本講義では、前期のミクロ経済学Ⅰで扱う知識を前提として、「市場の失敗」に係る諸問題を中心に
より進んだトピックスを考察する。具体的には、外部性、権利の売買、道路の混雑と投資、独占、寡
占、情報の非対称性等を学習する。本講義は、「経済学的思考」を身につけ、経済学的分析の方法を
体得することに主眼を置く。

【関連するディプロマポリシー(DP)】

公共政策プログラム 地域政策コース DP 2、インフラ政策コース DP 2、防災・危機管理コース DP
5、医療政策コース DP 2、農業政策コース DP 2、科学技術イノベーション政策コース DP 2、国際
協力コース DP 2、まちづくり政策コース DP 2、総合政策コース DP 2、科学技術イノベーション
政策プログラム DP 2、国際的指導力育成プログラム DP 3。

【到達目標】

「市場の失敗」を中心としたミクロ経済モデルを分析することができる。

「市場の失敗」を中心としたミクロ経済モデルを用いて政策的含意を示すことができる。

2. 各授業のテーマ :

- 1回 概説 (配布教材)
- 2回 外部経済と不経済 (7章、配布教材)
- 3-4回 減産補助金と環境権 (8章、配布教材)
- 5-6回 権利の売買 (11章、配布教材)
- 7-8回 混雑 (16章、配布教材)
- 9回 道路投資 (配布教材)
- 10回 労働 (13章、配布教材)
- 11回 規模の経済：独占 (6章、配布教材)
- 12回 ゲーム理論の基礎 (配布教材)
- 13回 寡占 (配布教材)
- 14回 情報の非対称性 (9章、配布教材)
- 15回 社会的厚生 (20章、配布教材)

進度等を考慮して上記内容を変更することがある。

【授業外学修】

授業前に、教科書の八田達夫『ミクロ経済学Ⅰ』、『ミクロ経済学Ⅱ』の授業範囲を読み予習をする。
授業後に、授業で扱ったミクロ経済モデルの分析方法や政策的含意をよく復習する。そして、教科書の章末の練習問題を解いて理解を深める。

3. 成績の評価方法：

筆記の期末試験を行い、「市場の失敗」を中心としたミクロ経済モデルを分析し政策的含意を示すことができるかを評価する。

【成績評価基準】

- A: 到達目標について高い水準で達成している
- B: 到達目標について満足できる水準で達成している
- C: 到達目標について概ね達成している
- D: 到達目標について最低限の水準は達成している
- E: 到達目標について達成できていない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)：

〔教科書〕

- 八田達夫『ミクロ経済学Ⅰ』 東洋経済新報社
- 八田達夫『ミクロ経済学Ⅱ』 東洋経済新報社

〔参考文献〕

- 伊藤元重『ミクロ経済学』（日本評論社）
- グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学 ミクロ編』（東洋経済新報社）
- 神取道宏『ミクロ経済学の力』（日本評論社）
- 奥野正寛『ミクロ経済学』（東京大学出版会）
- Gregory Mankiw "Principles of Microeconomics" South-Western Pub

5. 講義で使用するソフトウェア：

6. 聴講の可否：

可 Allow

7. 履修上の注意：

開講年度 (2024.4月-2025.3月) / Academic Year: (April 2024 - March 2025)

科目番号 / Course Number : ECO2710J

講義名[日本語(英語)] / Class Name : 費用便益分析

担当者 (フルネーム) / Course instructor (Full Name) : 城所 幸弘 KIDOKORO Yukihiro

学期・曜日・時限 / Term・Day・Period : 春後期 Spring (Session II)水 Wed/3 水 Wed/4

単位数/ Credits : 2

1. 本講義の概要及び到達目標 :

【本講義の概要】

ミクロ経済学の学習内容を発展させ、費用便益分析の基礎理論を学ぶ。費用便益分析を学ぶことにより、現実の政策を経済学的に分析することが可能になる。

費用便益分析の基礎を習得し、現実の政策分析に応用することを目指す。

【関連するディプロマポリシー】

公共政策プログラム

まちづくり政策コース 2, 3, 4, 地域政策コース 2, インフラ政策コース 2, 防災・危機管理コース 5, 医療政策コース 2, 農業政策コース 2, 科学技術イノベーションコース 2, 国際協力コース 2

【到達目標】

費用便益分析の基礎を理解し、自分が興味を持つ政策に応用できる。

任意の政策を費用便益分析に基づいて分析できる。

2. 各授業のテーマ :

【各授業のテーマ】

以下は、各回の講義の予定であるが、変更がありうる。

1 政策分析のためのミクロ経済学

2 費用便益分析の概念的基礎 (テキスト 2 章)

3 費用便益分析のミクロ経済学による基礎 (テキスト 3 章)

4 便益と費用の計算方法-基礎編- (テキスト 5 章、6 章)

5 便益と費用の計算方法-応用編- (テキスト 7 章)

6 具体的便益評価事例の検討-神戸空港の事例- (参考資料)

7,8 受講者による発表とそれに基づくディスカッション 1

9 割引 (テキスト 9 章)

10 不確実性への対処 (テキスト 11 章)

11 社会実験 (テキスト 14 章)

12 間接市場法 (テキスト 15 章)

13 仮想市場法 (テキスト 16 章)

14 費用便益分析で参考にできるシャドープライス、費用効果分析 (テキスト 17 章、18 章)

15 受講者による発表とそれに基づくディスカッション 2

その他の費用便益分析のテーマに関しては時間に余裕があれば触れる。

受講者は発表とそれに基づくディスカッションを踏まえ、費用便益分析に関するレポート作成し提

出する。

【授業外学修】

全員に自らが選んだテーマに関して費用便益分析をしてもらうため、その発表のための準備をすること。

自らの選んだテーマに関してレポートを作成すること。

配布する練習問題を解き、授業内容の理解を確認すること。

3. 成績の評価方法：

受講者発表：50%

レポート：50%

【成績評価基準】

A: 到達目標について高い水準で達成している

B: 到達目標について満足できる水準で達成している

C: 到達目標について概ね達成している

D: 到達目標について最低限の水準は達成している

E: 到達目標について達成できていない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)：

4-1

A. E. Boardman, D. H. Greenberg, A. R. Vining, D. L. Weimer (2018), Cost-Benefit Analysis- Concepts and Practice- 5th Edition, Cambridge University Press.

4-2

大橋弘編, EBPM の経済学(2020), 東京大学出版会。

5. 講義で使用するソフトウェア：

6. 聴講の可否：

否 Not Allow

7. 履修上の注意：

本講義は、ミクロ経済学の現実の政策分析への応用としての側面をもつため、ミクロ経済学の知識は必須である。したがって、「ECO1000J ミクロ経済学 I」と「ECO2000J ミクロ経済学 II」の2科目を履修済み、または履修中であることを本講義の履修要件とする。

開講年度 (2024.4月-2025.3月) / Academic Year: (April 2024 - March 2025)

科目番号 / Course Number : ECO3610E

講義名[日本語(英語)] / Class Name : Japanese Economy

担当者 (フルネーム) / Course instructor (Full Name) : 横山 直 YOKOYAMA Tadashi

学期・曜日・時限 / Term・Day・Period : 春後期 Spring (Session II)月 Mon/3 木 Thu/2

単位数/ Credits : 2

1. 本講義の概要及び到達目標 :

This is an "all-in-one" Japanese economy class.

The lecturer has a rich experience in economic policy planning, coordination and analysis in the Japanese government and at the OECD.

The main purpose of this course is to learn economic developments and policies in Japan since the high-growth era until today and understand basic mechanisms underlying the changes. The course is designed so that students obtain ability to interpret and collect economic data, critically evaluate different views, and consider appropriate macroeconomic policies based on theories, international comparison and lessons from Japan. Charts and tables will be used extensively to make basic ideas easy to understand.

Related Diploma Policy

Young Leaders Program (YLP):

2. Ability to conduct policy analysis and make practical policy recommendations to solve problems with extensive knowledge on public policy

3. Ability to build and develop friendly relations with Japan based on a deep understanding of Japan

Macroeconomic Policy Program (MEP):

2. Ability to analyze and present optimal policies from a cross-sectoral perspective with broad knowledge of applied fields in economics and public policy

3. Ability to make policy recommendations for practical solutions based on a deep understanding of the current state of macroeconomic policy theory and practice and the systems and examples of countries around the world

This course is related to the following SDGs: 8 (Decent Work and Economic Growth), 9 (Industry, Innovation and Infrastructure), 11 (Sustainable Cities and Communities), and 17 (Partnerships for the Goals).

2. 各授業のテーマ :

1. Introduction of the course

2. Brief history of economic development in Japan

3. The high-growth era

4. Trade conflicts in the 1980s

5. Creation and collapse of the bubble economy
6. Economic stagnation since the 1990s
7. Assessment of past structural reform policies
8. Evolution of economic policymaking process in Japan
9. Fiscal situation and policies
10. Overcoming deflation and monetary policy
11. Demographic situation and the labor market
12. Regional economic development
13. Competitiveness of Japanese industries under changing international environment
14. Review of the class
15. Presentation by students

Out-of-class learning

Students should read the handout distributed via Teams before each class to grasp the outline. After class, students should review the contents of the lecture and read reference materials provided during the lecture.

3. 成績の評価方法：

Course evaluation will be based on class participation (20%), students presentation (40%) and a term-end report (40%).

Each student should make a short-presentation about a topic of his/her choice at the final lecture and submit a report about the presentation by the end of July 2024.

Absence of more than 2 times will not be considered for grading.

Students achievement of the Course Goals is:

Outstanding: A

Superior: B

Satisfactory: C

Minimum acceptable: D

Below the acceptable level: E

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)：

Reference materials are provided during lectures.

4-2: OECD Economic Survey of Japan 2024, OECD

5. 講義で使用するソフトウェア：

6. 聴講の可否：

可 Allow

7. 履修上の注意：

Students without a background in economics are welcome.

開講年度 (2024.4月-2025.3月) / Academic Year: (April 2024 - March 2025)

科目番号 / Course Number : ECO6070E

講義名[日本語(英語)] / Class Name : Advanced Macroeconomics III

担当者 (フルネーム) / Course instructor (Full Name): BRAUN Richard AntonBRAUN Richard Anton

学期・曜日・時限 / Term・Day・Period : 春後期 Spring (Session II)水 Wed/1 水 Wed/2

単位数/ Credits : 2

1. 本講義の概要及び到達目標 :

Overview

In this course students will learn the theoretical modeling and empirical statistical tools of structural quantitative macroeconomics. The course will develop the theoretical foundations of efficient risk sharing and asset pricing in complete and incomplete market settings. A key objective of this course is to show students how to reflect theory in quantitative structural models that are parameterized and assessed using macroeconomic and microeconomic data. Students will learn how macroeconomic researchers pose and answer research questions and students will develop the critical thinking skills that will allow them to make independent research contributions of their own.

Related Diploma Policy

Policy Analysis Program (PA)

- 2) The ability to conduct quantitative analysis using the methods of modern economics.
- 3) Critical evaluation. The ability to summarize and critically assess frontier research produced by professional economists and other social scientists.

Macroeconomic Policy Program (MEP1) 1

Macroeconomic Policy Program (MEP2) 1

Having the deep expertise in basic economics necessary for the analysis, formulation and implementation of macroeconomic policies, the ability to apply it to macroeconomic policy design and evaluation practices.

Specific Course Goals

Students can:

- a. understand the principals of efficient risk-sharing of individual and aggregate risk and the ability to apply these principals to understand observed insurance arrangements for catastrophic risk, climate change and the pricing of sovereign debt.
- b. understand the theoretical and statistical foundations allow a researcher to use statistical inference to parameterize and assess a quantitative dynamic structural model.
- c. apply a toolkit of methods for estimating model parameters and exogenous distributions using

micro household/firm data and macro time-series data.

d. assess the fit of structural dynamic models.

e. Critically assess current research in quantitative macroeconomics.

2. 各授業のテーマ：

A. Lectures (15 lectures in total)

Topic 1 Efficient Risk Sharing and Competitive Equilibrium in finite economies with an application to efficient the efficient risk-sharing of natural disaster risk (2 lectures).

Topic 2 Efficient Sharing and Competitive equilibrium in infinite horizon economies with applications to global warming and dynamics of government debt prices in sovereign debt crises (2 lectures).

Topic 3 Sequential equilibrium formulation and solution with applications to Japan (2 lectures).

Topic 4 Household finance: self-insurance, marginal propensities to consume, borrowing and asset allocation (2 lectures).

Topic 5 Structural applications of incomplete market GE models: public and private insurance of long-term care risk (3 lectures).

Topic 6 Quantitative models of monetary policy (2 lectures).

Topic 7 Putting it all together: Monetary and fiscal policy in aging societies (2 lectures).

B. Out-of-Class Learning

(1) Students should review the lecture notes before the lecture and prepare a list of questions about the structure of the lecture. The aim here is to understand the motivation and outline of the structure of the lecture.

(2) After the lecture students are strongly encouraged to review the lecture notes again. The aim here is to focus on the nuts and bolts of the lecture. Associated with each lecture will be specific readings. After reviewing the lecture notes go through the assigned readings.

(3) After step 2 is complete the students develop hands on experience applying the tools developed in the lectures working on homework assignments.

3. 成績の評価方法：

Weekly homework assignments (assigned in weeks 1-6 and due the following week) (50%).

The homework assignments provide students with hands on experience working with the theoretical, computational and statistical methods developed in class.

The final exam is (50%) of the grade and is not included in the above 15 lecture count.

Student's achievement of the Course Goals is:

Outstanding: A

Superior: B

Satisfactory: C

Minimum acceptable: D

Below the acceptable level: E

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)：

4-1 Slides and readings for each topic will be distributed at least two days prior to each class via Teams.

There are no required textbooks.

4-2 Recommended readings

Recursive Macroeconomic Theory by Lars Ljungqvist and Thomas Sargent (4th Edition) 2018.

5. 講義で使用するソフトウェア：

Matlab

6. 聴講の可否：

否 Not Allow

7. 履修上の注意：

開講年度 (2024.4月-2025.3月) / Academic Year: (April 2024 - March 2025)

科目番号 / Course Number : ECO6730E

講義名[日本語(英語)] / Class Name : Advanced Econometrics IV

担当者 (フルネーム) / Course instructor (Full Name) : 後藤 潤 GOTO Jun

学期・曜日・時限 / Term・Day・Period : 春後期 Spring (Session II)木 Thu/3 木 Thu/4

単位数/ Credits : 2

1. 本講義の概要及び到達目標 :

- Course Description

In recent years, empirical economic research has seen a significant expansion in the types of data available, including not only traditional well-structured economic data but also unstructured data such as text and audio data. In response to this, statistical analysis methods have rapidly evolved, with advancements in the application of machine learning and refinement of causal inference techniques. This lecture series focuses on the cutting edge of empirical research that applies machine learning models to unstructured data. In this lecture series, after providing theoretical explanations of machine learning models and newly developed causal inference methods, we will go through key empirical studies. Students will be assigned the role of a reviewer for major empirical papers and will be expected to write referee reports. Furthermore, by actually replicating the publicly available data from these key empirical studies, students will learn the latest techniques.

- Related Diploma Policy (DP)

Policy Analysis Program

2. The ability to conduct quantitative analysis using the methods of modern economics

5. Communication. The ability to communicate in both oral and written form, complex ideas about the economy and society.

- Course Goals

Based on these lecture contents, students are expected to

- (1) critically discuss the novelty and validity of the latest empirical economics papers,
- (2) acquire skills to verify the reproducibility of empirical analyses, and
- (3) become capable of practicing data analysis using the latest analytical methods with tools such as R and Python.

2. 各授業のテーマ :

- Course Outline

We will cover the following topics:

- (1) Introduction: How to write a referee report
- (2) Basic knowledge of R and Python
- (3) How to replicate empirical papers

(4)-(8) Frontiers of empirical studies: Machine learning models

This topic will be decomposed into the following specific topics:

(a) Development Economics

(b) Political Economy

(c) Law and Economics

(d) Behavioral and Experimental Economics

(9)-(13) Frontiers of empirical studies: New data

This topic will cover the following studies based on new types of data:

(a) Social media data

(b) Audio and video data

(c) AI-based data

(14)-(15) How to write an empirical paper

- Out-of-class Learning

Students will be assigned the role of a reviewer for specified empirical papers each time and will submit a referee report. The process of writing a referee report will be explained in detail during the first lecture. The referee reports will be corrected and returned with feedback each time. Therefore, students will learn how to write and improve academic papers. Through this process, students will gain a deeper understanding of the content provided in the course and develop the ability to critically examine empirical analysis methods while learning them.

3. 成績の評価方法：

- Grading

Referee report (40%); Term paper (60%)

For the term paper, students will be required to conduct a replication of the assigned paper, evaluate whether the data handling and empirical analysis are appropriate, and submit a summary of their findings. The process of writing the term paper will be further explained in detail during the first lecture. The referee reports and term paper will be evaluated based on whether the aforementioned course goals have been achieved.

- Evaluation Criteria

Student's achievement of the Course Goals is:

Outstanding: A

Superior: B

Satisfactory: C

Minimum acceptable: D

Below the acceptable level: E

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)：

Original lecture materials will be shared on Teams one week before each lecture. Students are required to read the lecture materials and go through the assigned literature before participating

in the class. The reading list will also be provided in the first class.

Reference book:

Chan, Felix, and Laszlo Matyas. Linear Econometric Models with Machine Learning. Econometrics with Machine Learning. Cham: Springer International Publishing, 2022. 1-39.

Ash, E., & Hansen, S. (2023). Text algorithms in economics. Annual Review of Economics, 15, 659-688.

5. 講義で使用するソフトウェア :

We will use R and Python. Basic knowledge of these programming languages will be provided in the first and second classes.

6. 聴講の可否 :

否 Not Allow

7. 履修上の注意 :

開講年度 (2024.4 月-2025.3 月) / Academic Year: (April 2024 - March 2025)

科目番号 / Course Number : ECO7711J

講義名[日本語(英語)] / Class Name : 費用便益分析 (Cost-Benefit Analysis)

担当者 (フルネーム) / Course instructor (Full Name) : 城所 幸弘 KIDOKORO Yukihiro

学期・曜日・時限 / Term・Day・Period : 春後期 Spring (Session II)水 Wed/3 水 Wed/4

単位数/ Credits : 2

1. 本講義の概要及び到達目標 :

【本講義の概要】

ミクロ経済学の学習内容を発展させ、費用便益分析の基礎理論を学ぶ。費用便益分析を学ぶことにより、現実の政策を経済学的に分析することが可能になる。

費用便益分析の基礎を習得し、現実の政策分析に応用することを目指す。

【到達目標】

費用便益分析の基礎を理解し、自分が興味を持つ政策に応用できる。

任意の政策を費用便益分析に基づいて分析できる。

2. 各授業のテーマ :

【各授業のテーマ】

以下は、各回の講義の予定であるが、変更がありうる。

- 1 政策分析のためのミクロ経済学
- 2 費用便益分析の概念的基礎 (テキスト 2 章)
- 3 費用便益分析のミクロ経済学による基礎 (テキスト 3 章)
- 4 便益と費用の計算方法-基礎編- (テキスト 5 章、6 章)
- 5 便益と費用の計算方法-応用編- (テキスト 7 章)
- 6 具体的便益評価事例の検討-神戸空港の事例- (参考資料)
- 7,8 受講者による発表とそれに基づくディスカッション 1
- 9 割引 (テキスト 9 章)
- 10 不確実性への対処 (テキスト 11 章)
- 11 社会実験 (テキスト 14 章)
- 12 間接市場法 (テキスト 15 章)
- 13 仮想市場法 (テキスト 16 章)
- 14 費用便益分析で参考にできるシャドープライス、費用効果分析 (テキスト 17 章、18 章)
- 15 受講者による発表とそれに基づくディスカッション 2

その他の費用便益分析のテーマに関しては時間に余裕があれば触れる。

受講者は発表とそれに基づくディスカッションを踏まえ、費用便益分析に関するレポート作成し提出する。

【授業外学修】

全員に自らが選んだテーマに関して費用便益分析をしてもらうため、その発表のための準備をすること。

自らの選んだテーマに関してレポートを作成すること。

配布する練習問題を解き、授業内容の理解を確認すること。

3. 成績の評価方法：

受講者発表：50%

レポート：50%

【成績評価基準】

A: 到達目標について高い水準で達成している

B: 到達目標について満足できる水準で達成している

C: 到達目標について概ね達成している

D: 到達目標について最低限の水準は達成している

E: 到達目標について達成できていない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)：

4-1

A. E. Boardman, D. H. Greenberg, A. R. Vining, D. L. Weimer (2018), Cost-Benefit Analysis- Concepts and Practice- 5th Edition, Cambridge University Press.

4-2

大橋弘編, EBPM の経済学(2020), 東京大学出版会。

5. 講義で使用するソフトウェア：

6. 聴講の可否：

否 Not Allow

7. 履修上の注意：

本講義は、ミクロ経済学の現実の政策分析への応用としての側面をもつため、ミクロ経済学の知識は必須である。したがって、「ECO1000J ミクロ経済学 I」と「ECO2000J ミクロ経済学 II」の2科目を履修済み、または履修中であることを本講義の履修要件とする。

開講年度 (2024.4月-2025.3月) / Academic Year: (April 2024 - March 2025)

科目番号 / Course Number : ECO9010E

講義名[日本語(英語)] / Class Name : Advanced Research Methods in Macroeconomics

担当者(フルネーム) / Course instructor (Full Name): BRAUN Richard AntonBRAUN Richard Anton

学期・曜日・時限 / Term・Day・Period : 春後～秋 Spring (Session II) through Fall 火 Tue/6

単位数/ Credits : 2

1. 本講義の概要及び到達目標 :

Overview

This course is open to doctoral students in all disciplines of economics who are working on their dissertation as well as post-doctoral candidates. The activity of producing high quality research is different from routine coursework and requires distinct thinking and communication strategies. The objective of this course is to provide students with the tools that are needed to formulate, execute and communicate publishable research. Students will be guided through the entire process of producing a working paper that could be submitted to an English language peer-reviewed economics journal. Along the way students will develop skills for communicating and defending their research in English in seminars, professional conferences and other public forums. Students will also learn how to give constructive comments that improve the research of their peers. There is a preference for research that has empirical content and students are encouraged to develop and use a formal economic model to address their substantive economic questions.

Related Diploma Policy

Policy Analysis Program (PA)

- 1) The ability to independently devise and conduct a program of research
- 3) Critical evaluation. The ability to summarize and critically assess frontier research produced by professional economists and other social scientists.
- 4) Policy recommendations. The ability to use research results (their own and that done by others) to make evidence-based policy recommendations, as well as the ability to understand and communicate the limitations of research evidence for policy.
- 5) Communication. The ability to communicate in both oral and written form, complex ideas about the economy and society.

Course Goals

1. Formulate and execute a working paper that is suitable for submission to a peer-reviewed economic journal.
2. Develop the ability to make substantive, constructive comments on the research of other researchers.
3. Acquire the skills to effectively communicate and defend in both oral and written form their research output.

2. 各授業のテーマ：

Term 1 (Spring 2, all sessions are face-to-face) Preliminary (Specific content may change)

1.Session 1 Overview

- a.What is the question/theme
- b.Motivation
- c.How the theme is demonstrated.
- d.Parameterization and assessment.
- e.Correlation versus causality.
- fInspecting the mechanisms
- g.Robustness.
- h.Examples from published papers.

2.Session 2 research questions (What is the paper about)

- a.Provide examples of good research questions.
- b.Explain the structure of a good introduction.

3.Session 3 Presentations on research questions and themes in published papers in leading journals related to each student's research interests.

4.Session 4 research methodology. Methodologies used in economics to evaluate hypotheses.

5.Sessions 5-6 Presentations on research methodologies relevant for each student's research question.

6.Session 7-8 Presentations of draft research proposal. Motivation, hypothesis, related research and outline of their proposed research methodology.

7.Submission of the written research proposal and detailed outline of the research project.

Term 2 (Fall 1-2 2024, Sessions 1 and 2 will be held online, Sessions 3 and 4 will be held face-to-face)

1.Presentations on progress in developing research methodology (two class meetings)

2.Presentations on preliminary results (two class meetings)

3.Presentations on update of results and paper outline (two class meetings).

4.Submission of the first draft of the paper and line by line discussions (two class meetings).

5.Submission of final draft of the paper January 2025.

Out-of-class Learning

Students should read the lecture materials distributed via Teams. Their main out of class learning tasks will vary depending on the topics described above. In the first term the main focus

of their out-of-class learning will be devoted to reading related papers on their own research idea. Formulating their hypotheses, developing the theoretical and empirical strategies for assessing their hypotheses and preparing slides for their class presentations. The students will also learn about the research of others by reading and preparing to make comments material prepared by their classmates.

3. 成績の評価方法：

Grading is based on:

Effectiveness of presentations and comments on other research presentations (20%)

Research proposal (20%)

Completed research paper (60%)

Student's achievement of the Course Goals is:

Outstanding: A

Superior: B

Satisfactory: C

Minimum acceptable: D

Below the acceptable level: E

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)：

4-1. There are no required textbooks.

Lecture notes and readings will be made available via Teams.

4-2 Recommended readings

The Lively Art of Writing by Lucile Vaughn Payne

Writing Tips for Phd Students by John Cochrane

The Little Book of Research by Varanya Chaubey.

5. 講義で使用するソフトウェア：

Teams, Zoom

6. 聴講の可否：

可 Allow

7. 履修上の注意：

開講年度 (2024.4月-2025.3月) / Academic Year: (April 2024 - March 2025)

科目番号 / Course Number : GOV2320E

講義名[日本語(英語)] / Class Name : Comparative State Formation

担当者 (フルネーム) / Course instructor (Full Name) : LIM GuanieLIM Guanie

学期・曜日・時限 / Term・Day・Period : 春後期 Spring (Session II)火 Tue/3 火 Tue/4

単位数/ Credits : 2

1. 本講義の概要及び到達目標 :

This course unpacks how states were formed in the modern era, covering Europe, Africa, and East Asia. A comparative angle is emphasized for it helps us better understand what exactly has happened in particular cases, why, and with what effects. Through this process, we aim to specify concepts, categorize types, and understand power dynamics that lead to similarities and differences in experience.

The course is offered through a mix of lectures and workshops. Students will be exposed to theoretical works and contemporary development issues. The first few lectures will provide an overview of the evolution of states across time and space. Subsequently, workshops are held, which include student presentations and discussions. At each workshop, several students will present the main points of pre-assigned readings and share their perspectives on the topics covered.

By the end of the course, students should have an excellent understanding of the history, politics, and development of major countries, developed the tools to think about what is typical and/or unusual about these states, and to explain the main similarities and differences between them.

2. 各授業のテーマ :

Week 1: Organizational Meeting

Week 2: Anarchy, Order, and the State

Week 3: National Identities and Nationalism

Week 4: State Formation in Europe

Week 5: State Formation in Africa

Week 6: State Formation in Southeast Asia

Week 7: Divergent Patterns of Regional Development (I): Taiwan and Korea

Week 7: Divergent Patterns of Regional Development (II): Malaysia and Singapore

Week 8: Divergent Patterns of Regional Development (III): Brazil and Chile

Week 8: Divergent Patterns of Regional Development (IV): Botswana and Somalia

Readings [Required Reading = RR; Supplementary Reading = SR]:

Week 2

Peter Evans, Dietrich Rueschemeyer, and Theda Skocpol (eds). 1985. *Bringing the State Back In*. Cambridge University Press. Introduction and Conclusion [RR].

Douglas North. 1981. *Structure and Change in Economic History*. New York: Norton. Chapters 1-3 [RR].

Mancur Olson. 2000. *Power and Prosperity*. New York: Basic Books. Chapters 1-4 [SR].

Daron Acemoglu and James Robinson. 2012. *Why Nations Fail: The Origins of Power, Prosperity and Poverty*. New York: Crown Business [SR].

Francis Fukuyama. 2004. *State-Building: Governance and World Order in the 21st Century*. Ithaca: Cornell University Press [SR].

Week 3

Benedict Anderson. 1983. *Imagined Communities. Reflections on the Origin and Spread of Nationalism*. New York: Verso [RR].

Ernest Gellner. 1983. *Nations and Nationalism*. Ithaca: Cornell University Press. Chapters 1-7 [RR].

Week 4

Charles Tilly. 1990. *Coercion, Capital, and European States, AD 990-1992*. New Jersey: Blackwell. Chapters 1-6 [RR].

Week 5

Jeffrey Herbst. 2000. *States and Power in Africa*. Princeton: Princeton University Press. Chapters 1-6 [RR].

Crawford Young. 1994. *The African Colonial State in Comparative Perspective*.

New Haven: Yale University Press. Chapters 4-5 [RR].

Samuel Decalo. 1976. *Coups and Army Rule in Africa*. New Haven: Yale University Press [SR].

Week 6

Thongchai Winichakul. 1994. *Siam Mapped: A History of the Geo-body of a Nation*. Hawaii: University Hawaii Press [RR].

Oliver William Wolters. 1999. *History, Culture, and Region in Southeast Asian Perspectives*. Southeast Asia Program. Ithaca: Cornell University Press. Chapters 1-6 [SR].

Week 7

Alice Amsden. 1989. *Asias Next Giant: South Korea and Late Industrialization*. New York: Oxford University Press [RR].

Michelle Hsieh. 2011. Similar Opportunities, Different Responses: Explaining Divergent Patterns of Development between Taiwan and South Korea. *International Sociology*, 26(3): 364-391 [RR].

Tuong Vu. 2010. *Paths to Development in Asia: South Korea, Vietnam, China, and Indonesia*. New York: Cambridge University Press. Chapters 1, 2, 4, and 10 [RR].

Robert Wade. 2004. *Governing the Market: Economic Theory and the Role of Government in East Asian Industrialization*. Princeton: Princeton University Press [RR].

Week 7

Heidi Dahles. 2008. Entrepreneurship and the Legacies of a Developmental State: Singapore Enterprises Venturing Across National Borders. *Journal of Developmental Entrepreneurship*, 13(4): 485-508 [RR].

Edmund Terence Gomez and Kwame Sundaram Jomo. 1999. *Malaysia's Political Economy: Politics, Patronage and Profits*. Cambridge: Cambridge University Press [RR].

Kwame Sundaram Jomo. 1986. *A Question of Class: Capital, the State and Uneven Development in Malaya*. Singapore: Oxford University Press [RR].

Linda Low. 2001. *The Singapore Developmental State in the New Economy and*

Polity. *Pacific Review*, 14(3): 411-441 [RR].

Alexius Pereira. 2000. State Collaboration with Transnational Corporations: The Case of Singapore's Industrial Programmes (1965-1999). *Competition and Change*, 4: 423-451 [RR].

Garry Rodan. 1989. *The Political Economy of Singapore's Industrialization: National State and International Capital*. Basingstoke: Macmillan [RR].

Week 8

Peter Evans. 1979. *Dependent Development: The Alliance of Multinational, State, and Local Capital in Brazil*. Princeton: Princeton University Press [RR].

Atul Kohli. 2004. *State-Directed Development: Political Power and Industrialization in the Global Periphery*. Cambridge: Cambridge University Press. Chapters 4 and 5 [RR].

Amir Lebdioui. 2019. Chile's Export Diversification since 1960: A Free Market Miracle or Mirage? *Development and Change*, 50: 1624-1663 [RR].

Jewellord Nem Singh. 2014. Towards Post-Neoliberal Resource Politics? The International Political Economy (IPE) of Oil and Copper in Brazil and Chile. *New Political Economy*, 19(3): 329-358 [RR].

Jewellord Nem Singh. 2012. Who Owns the Minerals? Repoliticizing Neoliberal Governance in Brazil and Chile. *Journal of Developing Societies*, 28(2): 229-256 [RR].

Week 8

Ornulf Gulbrandsen. 2012. *The State and the Social: State Formation in Botswana and its Pre-Colonial and Colonial Genealogies*. New York: Berghahn Books [RR].

Charles Harvey. 1992. Botswana: Is the Economic Miracle Over? *Journal of African Economies*, 1(3): 335-368 [RR].

Helge-Mari Loubser and Hussein Solomon. 2014. Responding to State Failure in Somalia. *Africa Review*, 6(1): 1-17 [RR].

Bashi Mothusi and Kenneth Dipholo. 2008. Privatisation in Botswana: The Demise of a Developmental State? *Public Administration and Development*, 28: 239-249 [RR].

Abdi Ismail Samatar. 1997. Leadership and Ethnicity in the Making of African State Models: Botswana versus Somalia. *Third World Quarterly*, 18(4): 687-708 [RR].

Abdi Ismail Samatar. 1993. Structural Adjustment as Development Strategy?

Bananas, Boom, and Poverty in Somalia. *Economic Geography*, 69(1): 25-43 [RR].

Ian Taylor. 2012. Botswana as a Development-Oriented Gate-Keeping State: A Response. *African Affairs*, 111(444): 466-476 [RR].

Christian Webersik. 2005. Fighting for the Plenty: The Banana Trade in Southern Somalia. *Oxford Development Studies*, 33(1): 81-97 [RR].

3. 成績の評価方法：

Class attendance and participation (40%), presentation and discussion of the assigned readings in workshops (30%), and term paper (30%). For grading evaluation, a scale of A to E (A,B,C,D,E) would be employed.

The quality of participation and presentation matters. Late arrival and absence from class will count negatively. Absence without prior notification is disallowed. Prior to class, students are required to read the assigned literature and actively contribute to presentations and discussions.

For the term paper, the students will be asked to read and discuss the reading assignments of a week of their choice. While a summary of the readings is important, what matters more is how the students critically analyze them. The students are expected to cover both the required and supplementary readings. Additional literature is also welcome, especially if value is added to the discussion. The word limit is 2,000. Late submissions would be penalized by 30% per day.

Assessment of the term paper will be based on the following criteria:

Knowledge and understanding of the relevant debates

Ability to deploy analytical rather than purely descriptive skills

Awareness of differing perspectives and analytical approaches

Ability to deploy empirical material to assess the merits of contending theories and approaches

Ability to develop and persuasively present analytical arguments to advance a position or point of view in respond to the question posed

Coherence of structure and argument

Effective and comprehensible narrative style

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)：

Please refer to 2. Course Outline.

5. 講義で使用するソフトウェア：

6. 聴講の可否：

否 Not Allow

7. 履修上の注意：

開講年度 (2024.4月-2025.3月) / Academic Year: (April 2024 - March 2025)

科目番号 / Course Number : GOV7321E

講義名[日本語(英語)] / Class Name : Comparative State Formation (Advanced)

担当者 (フルネーム) / Course instructor (Full Name) : LIM GuanieLIM Guanie

学期・曜日・時限 / Term・Day・Period : 春後期 Spring (Session II)火 Tue/3 火 Tue/4

単位数/ Credits : 2

1. 本講義の概要及び到達目標 :

This course unpacks how states were formed in the modern era, covering Europe, Africa, and East Asia. A comparative angle is emphasized for it helps us better understand what exactly has happened in particular cases, why, and with what effects. Through this process, we aim to specify concepts, categorize types, and understand power dynamics that lead to similarities and differences in experience.

The course is offered through a mix of lectures and workshops. Students will be exposed to theoretical works and contemporary development issues. The first few lectures will provide an overview of the evolution of states across time and space. Subsequently, workshops are held, which include student presentations and discussions. At each workshop, several students will present the main points of pre-assigned readings and share their perspectives on the topics covered.

By the end of the course, students should have an excellent understanding of the history, politics, and development of major countries, developed the tools to think about what is typical and/or unusual about these states, and to explain the main similarities and differences between them.

2. 各授業のテーマ :

Week 1: Organizational Meeting

Week 2: Anarchy, Order, and the State

Week 3: National Identities and Nationalism

Week 4: State Formation in Europe

Week 5: State Formation in Africa

Week 6: State Formation in Southeast Asia

Week 7: Divergent Patterns of Regional Development (I): Taiwan and Korea

Week 7: Divergent Patterns of Regional Development (II): Malaysia and Singapore

Week 8: Divergent Patterns of Regional Development (III): Brazil and Chile

Week 8: Divergent Patterns of Regional Development (IV): Botswana and Somalia

Readings [Required Reading = RR; Supplementary Reading = SR]:

Week 2

Peter Evans, Dietrich Rueschemeyer, and Theda Skocpol (eds). 1985. *Bringing the State Back In*. Cambridge University Press. Introduction and Conclusion [RR].

Douglas North. 1981. *Structure and Change in Economic History*. New York: Norton. Chapters 1-3 [RR].

Mancur Olson. 2000. *Power and Prosperity*. New York: Basic Books. Chapters 1-4 [SR].

Daron Acemoglu and James Robinson. 2012. *Why Nations Fail: The Origins of Power, Prosperity and Poverty*. New York: Crown Business [SR].

Francis Fukuyama. 2004. *State-Building: Governance and World Order in the 21st Century*. Ithaca: Cornell University Press [SR].

Week 3

Benedict Anderson. 1983. *Imagined Communities. Reflections on the Origin and Spread of Nationalism*. New York: Verso [RR].

Ernest Gellner. 1983. *Nations and Nationalism*. Ithaca: Cornell University Press. Chapters 1-7 [RR].

Week 4

Charles Tilly. 1990. *Coercion, Capital, and European States, AD 990-1992*. New Jersey: Blackwell. Chapters 1-6 [RR].

Week 5

Jeffrey Herbst. 2000. *States and Power in Africa*. Princeton: Princeton University Press. Chapters 1-6 [RR].

Crawford Young. 1994. *The African Colonial State in Comparative Perspective*.

New Haven: Yale University Press. Chapters 4-5 [RR].

Samuel Decalo. 1976. *Coups and Army Rule in Africa*. New Haven: Yale University Press [SR].

Week 6

Thongchai Winichakul. 1994. *Siam Mapped: A History of the Geo-body of a Nation*. Hawaii: University Hawaii Press [RR].

Oliver William Wolters. 1999. *History, Culture, and Region in Southeast Asian Perspectives*. Southeast Asia Program. Ithaca: Cornell University Press. Chapters 1-6 [SR].

Week 7

Alice Amsden. 1989. *Asias Next Giant: South Korea and Late Industrialization*. New York: Oxford University Press [RR].

Michelle Hsieh. 2011. Similar Opportunities, Different Responses: Explaining Divergent Patterns of Development between Taiwan and South Korea. *International Sociology*, 26(3): 364-391 [RR].

Tuong Vu. 2010. *Paths to Development in Asia: South Korea, Vietnam, China, and Indonesia*. New York: Cambridge University Press. Chapters 1, 2, 4, and 10 [RR].

Robert Wade. 2004. *Governing the Market: Economic Theory and the Role of Government in East Asian Industrialization*. Princeton: Princeton University Press [RR].

Week 7

Heidi Dahles. 2008. Entrepreneurship and the Legacies of a Developmental State: Singapore Enterprises Venturing Across National Borders. *Journal of Developmental Entrepreneurship*, 13(4): 485-508 [RR].

Edmund Terence Gomez and Kwame Sundaram Jomo. 1999. *Malaysia's Political Economy: Politics, Patronage and Profits*. Cambridge: Cambridge University Press [RR].

Kwame Sundaram Jomo. 1986. *A Question of Class: Capital, the State and Uneven Development in Malaya*. Singapore: Oxford University Press [RR].

Linda Low. 2001. *The Singapore Developmental State in the New Economy and*

Polity. *Pacific Review*, 14(3): 411-441 [RR].

Alexius Pereira. 2000. State Collaboration with Transnational Corporations: The Case of Singapore's Industrial Programmes (1965-1999). *Competition and Change*, 4: 423-451 [RR].

Garry Rodan. 1989. *The Political Economy of Singapore's Industrialization: National State and International Capital*. Basingstoke: Macmillan [RR].

Week 8

Peter Evans. 1979. *Dependent Development: The Alliance of Multinational, State, and Local Capital in Brazil*. Princeton: Princeton University Press [RR].

Atul Kohli. 2004. *State-Directed Development: Political Power and Industrialization in the Global Periphery*. Cambridge: Cambridge University Press. Chapters 4 and 5 [RR].

Amir Lebdioui. 2019. Chile's Export Diversification since 1960: A Free Market Miracle or Mirage? *Development and Change*, 50: 1624-1663 [RR].

Jewellord Nem Singh. 2014. Towards Post-Neoliberal Resource Politics? The International Political Economy (IPE) of Oil and Copper in Brazil and Chile. *New Political Economy*, 19(3): 329-358 [RR].

Jewellord Nem Singh. 2012. Who Owns the Minerals? Repoliticizing Neoliberal Governance in Brazil and Chile. *Journal of Developing Societies*, 28(2): 229-256 [RR].

Week 8

Ornulf Gulbrandsen. 2012. *The State and the Social: State Formation in Botswana and its Pre-Colonial and Colonial Genealogies*. New York: Berghahn Books [RR].

Charles Harvey. 1992. Botswana: Is the Economic Miracle Over? *Journal of African Economies*, 1(3): 335-368 [RR].

Helge-Mari Loubser and Hussein Solomon. 2014. Responding to State Failure in Somalia. *Africa Review*, 6(1): 1-17 [RR].

Bashi Mothusi and Kenneth Dipholo. 2008. Privatisation in Botswana: The Demise of a Developmental State? *Public Administration and Development*, 28: 239-249 [RR].

Abdi Ismail Samatar. 1997. Leadership and Ethnicity in the Making of African State Models: Botswana versus Somalia. *Third World Quarterly*, 18(4): 687-708 [RR].

Abdi Ismail Samatar. 1993. Structural Adjustment as Development Strategy?

Bananas, Boom, and Poverty in Somalia. *Economic Geography*, 69(1): 25-43 [RR].

Ian Taylor. 2012. Botswana as a Development-Oriented Gate-Keeping State: A Response. *African Affairs*, 111(444): 466-476 [RR].

Christian Webersik. 2005. Fighting for the Plenty: The Banana Trade in Southern Somalia. *Oxford Development Studies*, 33(1): 81-97 [RR].

3. 成績の評価方法：

Class attendance and participation (40%), presentation and discussion of the assigned readings in workshops (30%), and term paper (30%). For grading evaluation, a scale of A to E (A,B,C,D,E) would be employed.

The quality of participation and presentation matters. Late arrival and absence from class will count negatively. Absence without prior notification is disallowed. Prior to class, students are required to read the assigned literature and actively contribute to presentations and discussions.

For the term paper, the students will be asked to read and discuss the reading assignments of a week of their choice. While a summary of the readings is important, what matters more is how the students critically analyze them. The students are expected to cover both the required and supplementary readings. Additional literature is also welcome, especially if value is added to the discussion. The word limit is 2,000. Late submissions would be penalized by 30% per day.

Assessment of the term paper will be based on the following criteria:

Knowledge and understanding of the relevant debates

Ability to deploy analytical rather than purely descriptive skills

Awareness of differing perspectives and analytical approaches

Ability to deploy empirical material to assess the merits of contending theories and approaches

Ability to develop and persuasively present analytical arguments to advance a position or point of view in respond to the question posed

Coherence of structure and argument

Effective and comprehensible narrative style

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)：

Please refer to 2. Course Outline.

5. 講義で使用するソフトウェア：

6. 聴講の可否：

否 Not Allow

7. 履修上の注意：

開講年度（2024.4月-2025.3月） / Academic Year: (April 2024 - March 2025)

科目番号 / Course Number : MEP4020E

講義名[日本語(英語)] / Class Name : Policy Paper Seminar II

担当者（フルネーム） / Course instructor (Full Name) : 藤本 淳一 他 FUJIMOTO Junichi, et al.

学期・曜日・時限 / Term・Day・Period : 春後期 Spring (Session II)

単位数/ Credits : 2

1. 本講義の概要及び到達目標 :

[Outline of this lecture]

This is a series of required courses for students in the 1-year Macroeconomic Policy Program and is devoted to producing a policy paper on a topic related to macroeconomic policy. Students will meet regularly in the spring term with a faculty advisor to formulate and discuss their research. Students choose the advisor during the Fall term based on their initiative and on assistance from the program director and begin working on their policy papers during the Winter term, before the formal course begins. In Spring II Term, students make a brief presentation of their research and take advantage of the obtained feedback to complete their policy papers.

Relevant DP: Macroeconomic Policy Program (4)(5)

[Course Goals]

Students can:

Analyze policy relevant issues using economic tools.

Write a policy paper based on the results of their analysis and present it.

Make policy recommendations based on their analysis.

2. 各授業のテーマ :

Arranged on an individual basis with students advisor. Typical contents of the meetings will include the following:

Discussion on the research topic

Discussion on the relevant literature

Discussion on the data

Discussion on the methodology

Discussion on the results of the analysis

Discussion on the presentation

Discussion on the organization of the policy paper

Discussion on the content of the policy paper

Discussion on the writing of the policy paper

Students will make a presentation in a policy paper presentation session, which will take place typically during early July.

3. 成績の評価方法：

[How grades are determined]

Grades will be determined based on the quality of the submitted policy paper as well as on a presentation arranged as part of Policy Paper Seminar II. Before submission of the final version, the policy paper must go through the plagiarism check.

[Evaluation Criteria]

Student's achievement of the Course Goals is:

Satisfactory: Pass

Unsatisfactory: Fail

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)：

Thomson, W. (2001), A Guide for the Young Economist. Cambridge, MA:MIT Press.

5. 講義で使用するソフトウェア：

6. 聴講の可否：

否 Not Allow

7. 履修上の注意：

開講年度 (2024.4月-2025.3月) / Academic Year: (April 2024 - March 2025)

科目番号 / Course Number : MOR2020J

講義名[日本語(英語)] / Class Name : 実践データサイエンス

担当者 (フルネーム) / Course instructor (Full Name) : 竹之内 高志 TAKENOUCHI Takashi

学期・曜日・時限 / Term・Day・Period : 春後期 Spring (Session II)木 Thu/3 木 Thu/4

単位数/ Credits : 2

1. 本講義の概要及び到達目標 :

現実の場で利用されている主要なデータ分析法を取りあげて, 現実のデータからどのように分析を行っていくか, その過程を体験し, 実践的な知識と経験を身に着けることを目指す.

多変量解析, 機械学習の基礎, AI・深層学習の入門的な内容を R を使った演習を交えて学ぶ.

到達目標

データ分析のための主要な手法の原理を理解し, R を用いて実践的に適用できる.

授業外学修

Teams 上にアップロードされた講義資料とサンプルコードを参考に, 講義中で説明された内容を自分で再現することができる ように努める.

関連するディプロマポリシー(DP)

公共政策プログラム

地域政策コース : ②

インフラ政策コース : ②

防災・危機管理コース : ⑤

医療政策コース : ①②④

農業政策コース : ①②④

科学技術イノベーション政策コース : ②③

国際協力コース : ②

まちづくり政策コース : ②③

総合政策コース : ②

2. 各授業のテーマ :

以下のようなモデルや手法を取り上げて, 講義と演習を行う.

導入

R の使い方

確率論の基礎事項

統計の基礎事項

教師あり学習について

最尤推定法

回帰モデル

モデル選択
クロスバリテーション
判別分析について
確率モデルに基づく分類手法
決定木
教師なし学習について
PCA
クラスタリング

3. 成績の評価方法：

レポートを総合して評価する.

【成績評価基準】

- A: 到達目標について高い水準で達成している
- B: 到達目標について満足できる水準で達成している
- C: 到達目標について概ね達成している
- D: 到達目標について最低限の水準は達成している
- E: 到達目標について達成できていない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)：

講義の中で適宜紹介する.

5. 講義で使用するソフトウェア：

(1)R と好きなテキストエディタ, (2)Rstudio
のどちらかをインストールしておいてください.

6. 聴講の可否：

可 Allow

7. 履修上の注意：

開講年度 (2024.4 月 - 2025.3 月) / Academic Year: (April 2024 - March 2025)

科目番号 / Course Number : MSP2060E

講義名 [日本語(英語)] / Class Name : Safety Management Systems II

担当者 (フルネーム) / Course instructor (Full Name) : 山田 多津人 YAMADA Tatsuto

学期・曜日・時限 / Term・Day・Period : 春後期 Spring (Session II)

単位数/ Credits : 1

1. 本講義の概要及び到達目標 :

[Course Description]

This lecture focuses on safety management of marine traffic. Safety management/assessment in the marine fields based on the marine traffic engineering which will be discussed in this class.

First, regarding maritime traffic management in Japan, the development of management methods against the background of the social environment and international trends regarding maritime traffic will be confirmed, and the current situation and issues will be understood.

Next, students will learn the basics of quantitative research methods and evaluation methods for the marine traffic environment.

Finally, some examples of maritime traffic issues are presented, and quantitative and qualitative approaches to maritime traffic policy are discussed.

Students learn the above items and can use various marine traffic issues for developing countries as well as developed ones by simulating situations with numerical methods.

[Related Diploma Policy (DP)]

Maritime Safety and Security Policy Program (MSP):

3 The practical and professional skills to manage and lead coast guard organizations

[Course Goals]

The goal of this lecture is to acquire basic knowledge of safety management in marine traffic and to be able to discuss solutions to actual issues.

2. 各授業のテーマ :

Session 1: Introduction

First, the concepts of safety and risk are confirmed and we discuss the relationship between risk and safety measures.

Next, the development of management methods in maritime traffic against the background of the social environment in Japan are introduced.

Session 2: International trends in maritime traffic

International trends regarding maritime traffic will be confirmed, and the current situation and

issues will be understood. And we discuss measures to solve the issues.

Session 3 & 4: Concrete approaches to solve the issues (1st Report Submission)

Characteristics of marine traffic and observation methods are introduced. Students consider the characteristics of marine traffic and learn how to get marine traffic data. Students are expected to implement the basic analysis using actual AIS data in Excel.

Session 5 & 6: Representation of marine traffic factors (2nd Report Submission)

The processing methods of observed marine traffic data and fundamental traffic description models are introduced. In addition, students will learn the methods of evaluation specified in the technical standards of port facilities in Japan.

Session 7: Relation between the collision risk and navigator's mental loads

Students learn basic concepts of the collision risk and the assessment method for collision avoidance using a maneuvering space model. Methods of safety assessment including that of a navigator's mental loads (subjective safety assessment) are introduced.

Session 8: Subjective safety assessment (3rd Report Submission)

Students discuss and learn the subjective safety assessment methods using analytical hierarchical processes (AHP) and ship handling simulators.

[Out-of-class Learning]

Students must read the scope of the lecture notes and reference papers before each class and submit the report on the assignments given after several classes by the next lecture.

3. 成績の評価方法：

- (1) Participation (Contribution to the discussion through comments and questions during each session): 40%.
- (2) Submission of 3 times reports (Evaluation items: level of understanding regarding the task, expression of required items, overall degree of completion): 60%

[Evaluation Criteria]

Student's achievement of the Course Goals is:

Outstanding: A

Superior: B

Satisfactory: C

Minimum acceptable: D

Below the acceptable level: E

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)：

Lecture notes and reference papers are provided.

5. 講義で使用するソフトウェア：

6. 聴講の可否：

否 Not Allow

7. 履修上の注意：

Students need to bring a PC in which Excel is installed and the OS is Windows 10 or 11.

開講年度 (2024.4月-2025.3月) / Academic Year: (April 2024 - March 2025)

科目番号 / Course Number : MSP3090E

講義名[日本語(英語)] / Class Name : Information Management System II

担当者 (フルネーム) / Course instructor (Full Name) : 磯崎 裕臣 ISOZAKI Hiroomi

学期・曜日・時限 / Term・Day・Period : 春後期 Spring (Session II)

単位数/ Credits : 1

1. 本講義の概要及び到達目標 :

1.本講義の概要

This lecture is designed to help students understand the basics of computer networks, including the Internet.

In the first half of this lecture, students will receive a lecture on the basics of computer networks. Through the lectures, students will learn the network

The goal is for students to gain an understanding of the technologies required to manage networks, and the technologies and information security required to be a network administrator as an information security or network administrator.

Related Diploma Policy: Maritime Safety and Security Program DP3 The practical and professional skills to manage and lead coast guard organizations

2.達成目標

Students can understand and explain the basics of computer networking.

Students can understand and be able to use the basic technology and knowledge required for network administration.

Students can understand and be able to explain the basic techniques and knowledge of information security.

2. 各授業のテーマ :

Session 1: Introduction

Preparation: None

Review: None

Session 2: What is Computer Networking. Students learn about network architecture, protocols, and the OSI reference model.

Preparation: Read the passages in the reference book that are relevant to the scope of the lesson. Understand the terminology.

Review: Summarize the lesson on your own word.

Session 3: What are the basic technologies of the Internet. Students learn about the Data Link Layer, Network Layer, Transport Layer, TCP/IP, and Ethernet.

Preparation: Read the passages in the reference book that are relevant to the scope of the lesson.

Understand the terminology.

Review: Summarize the lesson on your own word.

Session 4: Students learn about information security including computer viruses, malicious attacks, firewalls, encryption/decryption, and VPNs.

Preparation: Read the passages in the reference book that are relevant to the scope of the lesson.

Understand the terminology.

Review: Summarize the lesson on your own word.

Sessions 5-8: Students will practice network administration, including router and switch configuration.

Preparation: Review about session 1 ~ 4

Review: None

3. 成績の評価方法：

50% for written exams, 50% for midterm reports

A: Acquire sufficient basic knowledge and concepts of network technology and information security, and can explain how it works.

B: Acquire basic knowledge and concepts of network technology and information security, and can explain how it works.

C: Acquire basic knowledge and concepts of network technology and information security in general, and can explain how it works.

D: Acquire the minimum basic knowledge and concepts of network technology and information security, and can explain how it works.

E: Not acquire the basic knowledge and concepts of network technology and information security, and cannot explain how it works.

Rejection.

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)：

CCNA 200-301 Official Cert Guide, Volume 1.

5. 講義で使用するソフトウェア：

6. 聴講の可否：

否 Not Allow

7. 履修上の注意：

Students who take this lecture should have knowledge equivalent to the following lectures:

Information networking and Communication theory.

開講年度（2024.4月-2025.3月）/ Academic Year: (April 2024 - March 2025)

科目番号 / Course Number : STI1060J

講義名[日本語(英語)] / Class Name : 科学技術イノベーション政策概論

担当者（フルネーム）/ Course instructor (Full Name) : 鈴木 潤, 隅藏 康一, 飯塚 倫子, 林 隆之
SUZUKI Jun, SUMIKURA Koichi, IIZUKA Michiko and HAYASHI Takayuki

学期・曜日・時限 / Term・Day・Period : 春後期 Spring (Session II) 土 Sat/3 土 Sat/4

単位数/ Credits : 2

1. 本講義の概要及び到達目標 :

国や地方の行政担当者や、大学等の研究開発機関において研究マネジメントに携わる者にとって不可欠である、科学技術イノベーション政策における基礎的な理論と、最新の政策の状況について概説する。

近年、科学技術政策はイノベーション政策と一体化して対象範囲を拡大しており、日本においても科学技術の振興や産業への応用のみならず、「Society5.0」概念の提唱にみられるような新たな社会システムの設計と実現までを含めた政策形成が求められるようになってきている。本科目では、まず日本および海外の科学技術イノベーション政策の歴史的展開と最新動向を紹介する。また、科学政策、産業技術政策、イノベーション政策における論点とその理論について説明する。次に、デジタルイノベーション、エネルギー政策などの分野別の科学技術の動向および政策の動向について解説するとともに、科学外交・安全保障などの特徴的な課題について説明する。

受講者は、講義とディスカッションを通じて、科学技術イノベーション政策の理論と主要課題や、最新動向についての知識を得ると共に、各分野や各国・地域における政策の相違や背景について理解し、自らの関心領域や業務領域へとその知識を応用できるようになることが期待される。

【関連するディプロマポリシー(DP)】

特に強く関連する DP :

① 科学技術イノベーションとその政策に関する学術的知識を有し、それらを政策課題に対して応用することができる能力

一部関係する DP:

② 公共政策に係る知識を持ち、それらの文脈の中で科学技術イノベーション政策をとらえ、分析ができる能力

③ 科学技術イノベーション政策の課題を対象に、科学的アプローチに基づき、問題を設定し、仮説を構築し、定量的・定性的データ等を活用して分析を行い、それらを政策提言としてまとめ、政策形成者に対して示しコミュニケーションできる能力

④ 科学技術イノベーション政策の形成や実施の実務に関する理解を有し、理論と実務を架橋した実践的な政策提言ができる能力

⑤ グローバル社会において異なる価値観や制度を尊重し、その中で科学技術イノベーション政策を理解してコミュニケーションする姿勢を持ち、リーダーおよびフォロワーとしての役割を自覚して活躍できる能力

【到達目標】

- (1) 科学技術イノベーション政策の理論と主要課題や、最新動向についての知識を得て、自ら説明ができるようになっている。
- (2) 各分野や各国・地域における政策の相違や背景について理解して、自ら説明ができるようになっている。
- (3) 上記の知識を、自らの関心領域や業務領域へとその知識を応用できるようになっている。

2. 各授業のテーマ：

- 1 イン트로ダクション
- 2 ディスカッション（履修学生との問題意識の共有・議論）
- 3 海外における科学技術イノベーション政策（有本）
- 4 科学技術イノベーション政策の理論（鈴木）
- 5 科学技術イノベーション政策と外交・安全保障（角南）
- 6 日本の科学技術イノベーション政策（上山）
- 7 科学政策（林）
- 8 産業・イノベーション政策（鈴木）
- 9 トランスフォーマティブ・イノベーション（飯塚）
- 10 デジタライゼーション政策（外部講師：江崎浩 東京大学教授、デジタル庁 Chief Architect）
- 11 科学技術の社会的ガバナンス（外部講師：平川秀幸 大阪大学教授）
- 12 環境・エネルギー政策（根井）
- 13・14・15 学生発表

【授業外学修】

講義の各回について、事前学修として関係する参考文献および関係情報（政策動向など）をウェブサイトで閲覧し現在の政策課題がどのようなものであるか確認しておくこと。

事後学修として、講義内容を復習するとともに、講義で用いられた資料・参考文献を確認しておくこと。

第13～15回は学生発表を行うため、それまでの授業内容を復習した上で、指示する内容について発表資料の準備を事前に行っておくこと。

3. 成績の評価方法：

- ・授業におけるディスカッションへの参加：4割
- ・学生発表：6割

【成績評価基準】

- A: 到達目標について高い水準で達成している
- B: 到達目標について満足できる水準で達成している
- C: 到達目標について概ね達成している
- D: 到達目標について最低限の水準は達成している
- E: 到達目標について達成できていない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)：

4-1：なし

4-2：各回の参考文献については以下の通り。それ以外には各回の授業で紹介する。

第 3 回

- ・ 「科学的助言—21 世紀の科学技術と政策形成」、有本建男、佐藤靖、松尾敬子、吉川弘之、東京大学出版会、2016 年 8 月。
- ・ 「研究開発の俯瞰報告書：統合版—俯瞰と潮流—」、科学技術振興機構・研究開発戦略センター・研究開発の俯瞰報告書 2021、2021 年 57 月。 <https://www.jst.go.jp/crds/report/CRDS-FY2021-FR-01.html>
- ・ OECD Science, Technology and Innovation Outlook 2021 - Adapting to Technological and Societal Disruption, OECD, November 2021. <https://www.oecd.org/sti/oecd-science-technology-and-innovation-outlook-25186167.htm>

第 4 回

- ・ 秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉 著、「公共政策学の基礎」、有斐閣ブックス、2010 年

第 7 回

- ・ Simons, Kuhlman, Stamm, Canzler (2019), Handbook of Science and Public Policy, Edward Elgar.
- ・ マイケル・ギボンズ(1997)『現代社会と知の創造—モード論とは何か』丸善

第 8 回

- ・ 後藤晃、小田切宏之、「日本の産業システム-3：サイエンス型産業」、NTT 出版、2003 年
- ・ 鈴木潤、「日本のイノベーションと研究開発力の現状と課題」、情報の科学と技術 74 巻 1 号, 1~6 (2024)
- ・ 薬師寺泰蔵、「テクノヘゲモニー」、中公新書、1989 年

第 9 回

- ・ 「STI for SDGs の具現化に向けて-国連決議から 4 年、新しいステージへ」、中村・有本・今林著、科学技術振興機構・SDGs 室監修、2019 年 11 月。
https://www.jst.go.jp/sdgs/pdf/sti_for_sdgs_report_nov_2019.pdf
- ・ Global Sustainable Development Report (GSDR) 2019, July 2019, The United Nations. https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/24797GSDR_report_2019.pdf
- ・ Transformations to Achieve the Sustainable Development Goals, July 2018, International Institute for Applied Systems Analysis(IIASA). http://pure.iiasa.ac.at/id/eprint/15347/1/TWI2050_Report081118-web-new.pdf
- ・ The Digital Revolution and Sustainable Development: Opportunities and Challenges, July 2019, International Institute for Applied Systems Analysis(IIASA). <http://pure.iiasa.ac.at/id/eprint/15913/1/TWI2050-for-web.pdf>.
- ・ 飯塚倫子 (2019) 「ネオ・シュンペタリアンとイノベーション」 第 8 章、岡本哲史・
- ・ 小池洋一編『経済学のパラレルワールド：異端派総合アプローチ』新評論：p g 275-302
- ・ Schot, J., Steinmeuller, E., (2018) Three frames for innovation policy: R&D, systems of innovation and transformative change, Research Policy, 47 (2018) 15541567.

第 10 回

- ・ 江崎 浩『サイバーファースト 増補改訂版 インターネット遺伝子が創るデジタルとリアルの逆転経済』インプレス R&D、2019 年。

第 12 回

- ・ World Energy Outlook 2022, IEA
- ・ Energy Technology Perspective 2023, IEA

5. 講義で使用するソフトウェア：

6. 聴講の可否：

可 Allow

7. 履修上の注意：

※本講義は、履修証明プログラム「科学技術イノベーション政策・経営人材養成短期プログラム」の一部としても開講し、正規課程学生以外の科目履修生も聴講する。多様な背景を有する学生間でのディスカッションも期待する。

開講年度 (2024.4 月-2025.3 月) / Academic Year: (April 2024 - March 2025)

科目番号 / Course Number : STI1070J

講義名[日本語(英語)] / Class Name : 公的機関からのイノベーション創出

担当者(フルネーム)/ Course instructor (Full Name): 隅藏 康一, 飯塚 倫子, 林 隆之 SUMIKURA Koichi, IIZUKA Michiko and HAYASHI Takayuki

学期・曜日・時限 / Term・Day・Period : 春後期 Spring (Session II) 土 Sat/1 土 Sat/2

単位数/ Credits : 2

1. 本講義の概要及び到達目標 :

大学や公的研究機関(研究開発法人や地方公設試験所など)などの公的資金によって生み出された科学技術成果をいかに事業化・商業化へ結びつけ、イノベーションを実現し、経済社会的な成果を生み出していくかは、科学技術イノベーション政策の立案・実施や、大学・研究機関における戦略策定・研究マネジメントの実施において重要な課題である。近年、オープンイノベーションによる企業と公的機関との連携、組織対組織の連携による研究計画立案段階からの連携の増加、公的機関からのベンチャー創出や新産業創出への期待など、イノベーションへとつながる事業化支援の必要性がさらに増しているとともに、科学技術イノベーションを通じた社会的課題解決の点からのソーシャルアントレプレナーの必要性も指摘されている。

本科目では、産学連携や成果の橋渡し支援を通じた公的機関における事業化の支援方策、アントレプレナー人材の育成、技術シーズのインキュベーションの方策、VC やアクセラレータの機能と育成方策、組織間の包括協定による連携、社会実験を含めた地域振興や社会課題解決に結びついた支援方策、ソーシャルアントレプレナーの育成、イノベーションの普及方策などについて理論的整理を含む講義と、業務を実際に担当している実務者による事例の説明、ならびにインテンシブな議論を行う。これらを通じて、受講者は事業化の理論と事例についての知識を得るとともに、自らの立場において事業化やその支援を行う方法を検討することができるようになることが期待される。また、実際に事業化のためのビジネスモデル開発実習を行い、自らが事業化(あるいは支援ビジネスの開発)を体験する。これにより、ビジネスサイクルの理解をいっそう深めることが期待される。

【関連するディプロマポリシー(DP)】

特に強く関連する DP :

① 科学技術イノベーションとその政策に関する学術的知識を有し、それらを政策課題に対して応用することができる能力

一部関係する DP:

② 公共政策に係る知識を持ち、それらの文脈の中で科学技術イノベーション政策をとらえ、分析ができる能力

③ 科学技術イノベーション政策の課題を対象に、科学的アプローチに基づき、問題を設定し、仮説を構築し、定量的・定性的データ等を活用して分析を行い、それらを政策提言としてまとめ、政策形成者に対して示しコミュニケーションできる能力

④ 科学技術イノベーション政策の形成や実施の実務に関する理解を有し、理論と実務を架橋した実践的な政策提言ができる能力

⑤ グローバル社会において異なる価値観や制度を尊重し、その中で科学技術イノベーション政策を理解してコミュニケーションする姿勢を持ち、リーダーおよびフォロワーとしての役割を自覚して活躍できる能力

2. 各授業のテーマ：

授業は以下を予定している。外部講師は昨年度のかたであり、変更がある可能性がある。決まり次第、シラバスを更新する。

1・2 シーズ形成と移転 （隅藏、山本貴史（株式会社東京大学 TLO 代表取締役）、大西晋嗣（九州大学 学術研究・産学官連携本部 知財・ベンチャー創出グループ グループリーダー））

3・4 起業促進 （隅藏、山口泰久（FFG ベンチャービジネスパートナーズ 取締役副代表）、原田謙治（㈱メディカルインキュベータージャパン 取締役））

5・6 ライフサイエンスからのイノベーション （隅藏、菱山豊（文部科学省科学技術・学術政策研究所 所長））

7・8 公的機関によるイノベーション創出の組織的取組（林、出口 敦（東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授））

9・10 地域イノベーション （隅藏、福嶋 路（東北大学大学院 教授）、野澤一博（流通経済大学 教授））

11・12・13 ビジネスモデル開発演習 （隅藏、今津美樹（WinDos 代表取締役））

14・15 ソーシャルイノベーション （飯塚、中村 俊裕（コペルニク共同創設者兼 CEO））

【授業外学修】講義で示された参考資料・参照先ウェブサイトについて各自で参照し、理解を深めること。自らの選んだテーマに関してレポートを作成すること。

3. 成績の評価方法：

- ・授業におけるディスカッションへの参加：4 割
- ・レポート：6 割

【成績評価基準】

- A: 到達目標について高い水準で達成している
- B: 到達目標について満足できる水準で達成している
- C: 到達目標について概ね達成している
- D: 到達目標について最低限の水準は達成している
- E: 到達目標について達成できていない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)：

4-1:なし

4-2:

海老原城一、中村彰二郎(2019)『SmartCity 5.0 地方創生を加速する都市 OS』インプレス

今津美樹(2014)『図解ビジネスモデル・ジェネレーション ワークショップ』翔泳社

Alexander Osterwalder, Yves Pigneur(2010), Business Model Generation: A Handbook for Visionaries, Game Changers, and Challengers, Wiley

Alexander Osterwalder, et al. (2014), Value Proposition Design: How to Create Products and Services Customers Want, Wiley

5. 講義で使用するソフトウェア：

6. 聴講の可否：

可 Allow

7. 履修上の注意：

※本講義は、履修証明プログラム「科学技術イノベーション政策・経営人材養成短期プログラム」の一部としても開講し、正規課程学生以外の科目履修生も聴講する。多様な背景を有する学生間でのディスカッションも期待する。

※グループワークがあるため、聴講希望の者も事前に相談すること。

開講年度 (2024.4月-2025.3月) / Academic Year: (April 2024 - March 2025)

科目番号 / Course Number : STI6061J

講義名[日本語(英語)] / Class Name : 科学技術イノベーション政策概論

担当者 (フルネーム) / Course instructor (Full Name) : 鈴木 潤, 隅藏 康一, 飯塚 倫子, 林 隆之
SUZUKI Jun, SUMIKURA Koichi, IIZUKA Michiko and HAYASHI Takayuki

学期・曜日・時限 / Term・Day・Period : 春後期 Spring (Session II)土 Sat/3 土 Sat/4

単位数/ Credits : 2

1. 本講義の概要及び到達目標 :

国や地方の行政担当者や、大学等の研究開発機関において研究マネジメントに携わる者にとって不可欠である、科学技術イノベーション政策における基礎的な理論と、最新の政策の状況について概説する。

近年、科学技術政策はイノベーション政策と一体化して対象範囲を拡大しており、日本においても科学技術の振興や産業への応用のみならず、「Society5.0」概念の提唱にみられるような新たな社会システムの設計と実現までを含めた政策形成が求められるようになっている。本科目では、まず日本および海外の科学技術イノベーション政策の歴史的展開と最新動向を紹介する。また、科学政策、産業技術政策、イノベーション政策における論点とその理論について説明する。次に、デジタルイノベーション、エネルギー政策などの分野別の科学技術の動向および政策の動向について解説するとともに、科学外交・安全保障などの特徴的な課題について説明する。

受講者は、講義とディスカッションを通じて、科学技術イノベーション政策の理論と主要課題や、最新動向についての知識を得ると共に、各分野や各国・地域における政策の相違や背景について理解し、自らの関心領域や業務領域へとその知識を応用できるようになることが期待される。

【関連するディプロマポリシー(DP)】

特に強く関連する DP :

① 科学技術イノベーションとその政策に関する高度な学術的かつ学際的な専門知識を有し、それらを政策課題に対して複合的に応用することができる能力

一部関係する DP:

② 公共政策に係る幅広い知識を持ち、それらの文脈の中で科学技術イノベーション政策をとらえ、多角的な視野から分析ができる能力

③ 科学技術イノベーション政策の課題を対象に、科学的アプローチに基づき、過去の学術的知見を踏まえて問題を設定し、仮説を構築し、科学技術イノベーションに特有なデータを含めて多様な定量的・定性的データ等を活用して独自の分析を行い、それらを研究論文や政策提言としてまとめ、政策形成者に対して示しコミュニケーションできる能力

④ 科学技術イノベーション政策の形成や実施の実務に関する高度な理解を有し、理論と実務を架橋した実践的な政策提言ができる能力

⑤ グローバル社会において異なる価値観や制度を尊重し、その中で科学技術イノベーション政策を理解してコミュニケーションする姿勢を持ち、リーダーとして活躍できる能力

【到達目標】

(1) 科学技術イノベーション政策の理論と主要課題や、最新動向についての深い知識を得て、自ら説

明ができるようになっている。

(2) 各分野や各国・地域における政策の相違や背景について深く理解して、自ら説明ができるようになっている。

(3) 上記の知識を、自らの関心領域や業務領域へとその知識を複合的に応用できるようになっている。

2. 各授業のテーマ：

- 1 インTRODakション
- 2 ディスカッション（履修学生との問題意識の共有・議論）
- 3 海外における科学技術イノベーション政策（有本）
- 4 科学技術イノベーション政策の理論（鈴木）
- 5 科学技術イノベーション政策と外交・安全保障（角南）
- 6 日本の科学技術イノベーション政策（上山）
- 7 科学政策（林）
- 8 産業・イノベーション政策（鈴木）
- 9 トランスフォーマティブ・イノベーション（飯塚）
- 10 デジタライゼーション政策（外部講師：江崎浩 東京大学教授、デジタル庁 Chief Architect）
- 11 科学技術の社会的ガバナンス（外部講師：平川秀幸 大阪大学教授）
- 12 環境・エネルギー政策（根井）
- 13・14・15 学生発表

【授業外学修】

講義の各回について、事前学修として関係する参考文献および関係情報（政策動向など）をウェブサイトで閲覧し現在の政策課題がどのようなものであるか確認しておくこと。

事後学修として、講義内容を復習するとともに、講義で用いられた資料・参考文献を確認しておくこと。

第13～15回は学生発表を行うため、それまでの授業内容を復習した上で、指示する内容について発表資料の準備を事前に行っておくこと。

3. 成績の評価方法：

- ・授業におけるディスカッションへの参加：4割
- ・学生発表：6割

【成績評価基準】

- A: 到達目標について高い水準で達成している
- B: 到達目標について満足できる水準で達成している
- C: 到達目標について概ね達成している
- D: 到達目標について最低限の水準は達成している
- E: 到達目標について達成できていない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)：

4-1：なし

4-2：各回の参考文献については以下の通り。それ以外には各回の授業で紹介する。

第3回

- ・「科学的助言—21世紀の科学技術と政策形成」、有本建男、佐藤靖、松尾敬子、吉川弘之、東

京大学出版会、2016 年 8 月.

- ・ 「研究開発の俯瞰報告書：統合版—俯瞰と潮流—」、科学技術振興機構・研究開発戦略センター・研究開発の俯瞰報告書 2021、2021 年 57 月. <https://www.jst.go.jp/crds/report/CRDS-FY2021-FR-01.html>
- ・ OECD Science, Technology and Innovation Outlook 2021 - Adapting to Technological and Societal Disruption, OECD, November 2021.
<https://www.oecd.org/sti/oecd-science-technology-and-innovation-outlook-25186167.htm>

第 4 回

- ・ 秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉 著、「公共政策学の基礎」、有斐閣ブックス、2010 年

第 7 回

- ・ Simons, Kuhlman, Stamm, Canzler (2019), Handbook of Science and Public Policy, Edward Elgar.
- ・ マイケル・ギボンズ(1997)『現代社会と知の創造—モード論とは何か』丸善

第 8 回

- ・ 後藤晃、小田切宏之、「日本の産業システム-3 :サイエンス型産業」、NTT 出版、2003 年
- ・ 鈴木潤、「日本のイノベーションと研究開発力の現状と課題」、情報の科学と技術 74 巻 1 号, 1~6 (2024)
- ・ 薬師寺泰蔵、「テクノヘゲモニー」、中公新書、1989 年

第 9 回

- ・ 「STI for SDGs の具現化に向けて-国連決議から 4 年、新しいステージへ」、中村・有本・今林著、科学技術振興機構・SDGs 室監修、2019 年 11 月.
https://www.jst.go.jp/sdgs/pdf/sti_for_sdgs_report_nov_2019.pdf
- ・ Global Sustainable Development Report (GSDR) 2019, July 2019, The United Nations.
https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/24797GSDR_report_2019.pdf
- ・ Transformations to Achieve the Sustainable Development Goals, July 2018, International Institute for Applied Systems Analysis(IIASA).
http://pure.iiasa.ac.at/id/eprint/15347/1/TWI2050_Report081118-web-new.pdf
- ・ The Digital Revolution and Sustainable Development: Opportunities and Challenges, July 2019, International Institute for Applied Systems Analysis(IIASA).
<http://pure.iiasa.ac.at/id/eprint/15913/1/TWI2050-for-web.pdf>.
- ・ 飯塚倫子 (2019)「ネオ・シュンペタリアンとイノベーション」第 8 章、岡本哲史・
- ・ 小池洋一編『経済学のパラレルワールド：異端派総合アプローチ』新評論：p g 275-302
- ・ Schot, J., Steinmeuller, E., (2018) Three frames for innovation policy: R&D, systems of innovation and transformative change, Research Policy, 47 (2018) 15541567.

第 10 回

- ・ 江崎 浩『サイバーファースト 増補改訂版 インターネット遺伝子が創るデジタルとリアルの逆転経済』インプレス R&D、2019 年.

第 12 回

- ・ World Energy Outlook 2022, IEA
- ・ Energy Technology Perspective 2023, IEA

5. 講義で使用するソフトウェア：

6. 聴講の可否：

可 Allow

7. 履修上の注意：

※本講義は、履修証明プログラム「科学技術イノベーション政策・経営人材養成短期プログラム」の一部としても開講し、正規課程学生以外の科目履修生も聴講する。多様な背景を有する学生間でのディスカッションも期待する。

開講年度（2024.4月-2025.3月）/ Academic Year: (April 2024 - March 2025)

科目番号 / Course Number : STI6071J

講義名[日本語(英語)] / Class Name : 公的機関からのイノベーション創出

担当者(フルネーム)/ Course instructor (Full Name): 隅藏 康一, 飯塚 倫子, 林 隆之 SUMIKURA Koichi, IIZUKA Michiko and HAYASHI Takayuki

学期・曜日・時限 / Term・Day・Period : 春後期 Spring (Session II) 土 Sat/1 土 Sat/2

単位数/ Credits : 2

1. 本講義の概要及び到達目標 :

大学や公的研究機関（研究開発法人や地方公設試験所など）などの公的資金によって生み出された科学技術成果をいかに事業化・商業化へ結びつけ、イノベーションを実現し、経済社会的な成果を生み出していくかは、科学技術イノベーション政策の立案・実施や、大学・研究機関における戦略策定・研究マネジメントの実施において重要な課題である。近年、オープンイノベーションによる企業と公的機関との連携、組織対組織の連携による研究計画立案段階からの連携の増加、公的機関からのベンチャー創出や新産業創出への期待など、イノベーションへとつながる事業化支援の必要性がさらに増しているとともに、科学技術イノベーションを通じた社会的課題解決の点からのソーシャルアントレプレナーの必要性も指摘されている。

本科目では、産学連携や成果の橋渡し支援を通じた公的機関における事業化の支援方策、アントレプレナー人材の育成、技術シーズのインキュベーションの方策、VCやアクセラレータの機能と育成方策、組織間の包括協定による連携、社会実験を含めた地域振興や社会課題解決に結びついた支援方策、ソーシャルアントレプレナーの育成、イノベーションの普及方策などについて理論的整理を含む講義と、業務を実際に担当している実務者による事例の説明、ならびにインテンシブな議論を行う。これらを通じて、受講者は事業化の理論と事例についての知識を得るとともに、自らの立場において事業化やその支援を行う方法を検討することができるようになることが期待される。また、実際に事業化のためのビジネスモデル開発実習を行い、自らが事業化（あるいは支援ビジネスの開発）を体験する。これにより、ビジネスサイクルの理解をいっそう深めることが期待される。

【関連するディプロマポリシー(DP)】

特に強く関連する DP :

① 科学技術イノベーションとその政策に関する高度な学術的かつ学際的な専門知識を有し、それらを政策課題に対して複合的に応用することができる能力

一部関係する DP:

② 公共政策に係る幅広い知識を持ち、それらの文脈の中で科学技術イノベーション政策をとらえ、多角的な視野から分析ができる能力

③ 科学技術イノベーション政策の課題を対象に、科学的アプローチに基づき、過去の学術的知見を踏まえて問題を設定し、仮説を構築し、科学技術イノベーションに特有なデータを含めて多様な定量的・定性的データ等を活用して独自の分析を行い、それらを研究論文や政策提言としてまとめ、政策形成者に対して示しコミュニケーションできる能力

- ④ 科学技術イノベーション政策の形成や実施の実務に関する高度な理解を有し、理論と実務を架橋した実践的な政策提言ができる能力
- ⑤ グローバル社会において異なる価値観や制度を尊重し、その中で科学技術イノベーション政策を理解してコミュニケーションする姿勢を持ち、リーダーとして活躍できる能力

2. 各授業のテーマ：

授業は以下を予定している。外部講師は昨年度のかたであり、変更がある可能性がある。決まり次第、シラバスを更新する。

1・2 シーズ形成と移転（隅藏、山本貴史（株式会社東京大学 TLO 代表取締役）、大西晋嗣（九州大学 学術研究・産学官連携本部 知財・ベンチャー創出グループ グループリーダー））

3・4 起業促進（隅藏、山口泰久（FFG ベンチャービジネスパートナーズ 取締役副代表）、原田謙治（㈱メディカルインキュベータージャパン 取締役））

5・6 ライフサイエンスからのイノベーション（隅藏、菱山豊（文部科学省科学技術・学術政策研究所 所長））

7・8 公的機関によるイノベーション創出の組織的取組（林、出口 敦（東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授））

9・10 地域イノベーション（隅藏、福嶋 路（東北大学大学院 教授）、野澤一博（流通経済大学 教授））

11・12・13 ビジネスモデル開発演習（隅藏、今津美樹（WinDos 代表取締役））

14・15 ソーシャルイノベーション（飯塚、中村 俊裕（コペルニク共同創設者兼 CEO））

【授業外学修】講義で示された参考資料・参照先ウェブサイトについて各自で参照し、理解を深めること。自らの選んだテーマに関してレポートを作成すること。

3. 成績の評価方法：

- ・授業におけるディスカッションへの参加：4 割
- ・レポート：6 割

【成績評価基準】

- A: 到達目標について高い水準で達成している
- B: 到達目標について満足できる水準で達成している
- C: 到達目標について概ね達成している
- D: 到達目標について最低限の水準は達成している
- E: 到達目標について達成できていない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)：

4-1:なし

4-2:

海老原城一、中村彰二郎(2019)『SmartCity 5.0 地方創生を加速する都市 OS』インプレス

今津美樹(2014)『図解ビジネスモデル・ジェネレーション ワークショップ』翔泳社

Alexander Osterwalder, Yves Pigneur(2010), Business Model Generation: A Handbook for

Visionaries, Game Changers, and Challengers, Wiley

Alexander Osterwalder, et al. (2014), Value Proposition Design: How to Create Products and Services Customers Want, Wiley

5. 講義で使用するソフトウェア：

6. 聴講の可否：

可 Allow

7. 履修上の注意：

※本講義は、履修証明プログラム「科学技術イノベーション政策・経営人材養成短期プログラム」の一部としても開講し、正規課程学生以外の科目履修生も聴講する。多様な背景を有する学生間でのディスカッションも期待する。

※グループワークがあるため、聴講希望の者も事前に連絡すること。

開講年度 (2024.4 月-2025.3 月) / Academic Year: (April 2024 - March 2025)

科目番号 / Course Number : STI7180E

講義名[日本語(英語)] / Class Name : Advanced Energy Policy

担当者 (フルネーム) / Course instructor (Full Name) : 根井 寿規, 坂本 敏幸 NEI Hisanori and SAKAMOTO Toshiyuki

学期・曜日・時限 / Term・Day・Period : 春後期 Spring (Session II)月 Mon/3 月 Mon/4

単位数/ Credits : 2

1. 本講義の概要及び到達目標 :

This course will support Ph.D. students to conduct energy policy related research .

The course is developed together with Prof. Toshiyuki SAKAMOTO, Managing Director, The Institute of Energy Economics, Japan and Adjunct Professor of GRIPS.

We will select relevant issues for students to discuss.

This class is designed for students to meet with preparational works for their QE.

By the lectures and/or discussions with relevant experts in the related area of interest , students should develop effective research plan for their PhD thesis.

Following outline shows just examples.

This course is related to the following SDGs: 7 (Energy), 8 (Economic Growth),13(Climate Action)

[Related Diploma Policy (DP)]

Science, Technology and Innovation Policy Program (STI)(Doctoral)

1.) Have advanced academic and interdisciplinary expertise in science,technology, and innovation and policies, and the ability to apply them to policy issues in multiple ways.

2.)Have a wide range of knowledge on public policies, and the ability to understand science, technology, and innovation policies within this context and analyze them from a multifaceted perspective.

3.) The ability using scientific approach, for issues related to science and technology innovation policy, to set up problems based on past scientific knowledge, to construct hypotheses, to conduct independent analysis using various quantitative and qualitative data including data specific to science and technology innovation, to compile research papers and policy proposals, and to present them to policy makers and communicate them.

4.) Have a high level of understanding on the formulation and implementation of science and technology innovation policies and the ability to make practical policy recommendations that bridge theory and practice

5.)The ability to act as a leader by respecting different values and systems in a

global society and understand especially science, technology, and innovation policies and is willing to communicate with others.

[Course Goals]

Students can:

develop meaningful and effective research plan to pass the QE

2. 各授業のテーマ：

Week 1-1 Introduction (Nei)

Outline of the course, issues to be discussed about energy policy etc..

A few topics will be introduced as case studies.

We ask students about their interests.

Week 1-2 Oil Security (Nei)

At the time of Oil Crisis in 1970s, western nations conducted several policy measures including to reduce their dependency of oil consumption in power sector by suppression of new oil firing power plant construction. We will discuss several consequences.

Week 2-1 Introduction 2(SAKAMOTO)

Professor Sakamoto will explain latest issues of discussion in the global energy policy arena.

He also will suggest several issues for future discussion including more efficient energy use, creation of lower cost renewable energy supply, cleaner use of fossil fuel, the way of build safer nuclear system, power market reform & 3E+S+M etc.

Week 2-2 Asian Energy Outlook by IEEJ (SAKAMOTO)

Prof. Sakamoto will explain the issues to discuss for Asian Energy Outlook.

Week 3-1 Lower cost of renewable energy supply (SAKAMOTO)

Prof. Sakamoto will explain couple of difficulties to be overcome for creation of lower cost renewable energy supply

Week 3-2 Cleaner Use of Fossil Fuels(SAKAMOTO)

Prof. Toyoda will explain the issues to be discussed for cleaner use of fossil fuels.

Week 4-1 Special Lecture 1 (by inviting lecturers(TBD))

Inviting lecturers will give their lecture to meet the interest of the students.

(We invited Dr. Koji Horinuki and Dr. Shigeto Kondo to discuss about the situation of the Gulf in the course on 2021)

Week 4-2 Special Lecture 1 cont.

Inviting lecturers will give their lecture to meet the interest of the students.

Week 5-1 Safer Nuclear (SAKAMOTO)

Prof Sakamoto will explain his view on the way to create safer nuclear system.

Week 5-2 Global Challenge (SAKAMOTO)

Prof. Sakamoto will discuss about global energy policy challenge including market reform & 3E+S+M with you.

Week 6-1 Special Lecture 2

Inviting lecturers will give their lecture to meet the interest of the students.

(We invited Dr. Nahoko Doi and Dr. David Wagon to discuss about Energy Conservation Policy in the course on 2022)

Week 6-2 Special Lecture 2 cont.

Inviting lecturers will give their lecture to meet the interest of the students.

Week 7-1 Special Lecture 3

Inviting lecturers will give their lecture to meet the interest of the students.

(We invited Prof. Ryoichi Komiyama of Tokyo Univ. and Mr. Yoshiaki Shibata to discuss about power market design and new technology option for Net Zero Emission System in the course on 2021 and 2022.)

Week 7-1 Special Lecture 3 cont.

Inviting lecturers will give their lecture to meet the interest of the students.

Week 8-1 Summary (Nei, SAKAMOTO)

Summary discussion of the course and further issues to research

[Out-of-class Learning]

- Students should draft their research plan in advance and present it in the first class
- Students should look for experts who could give effective comments and/or advice to improve your research plan.
- Before discussing experts, students should make meaningful research questions to them
- Before and after each class, students should discuss with their main advisor to improve their research plan based on the class

3. 成績の評価方法：

The course will be graded on a pass/fail basis.

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)：

World Energy Outlook 2023, IEA

Energy Supply Security 2014, IEA

The Quest Daniel Yergin, 2011

The Commanding Heights Daniel Yergin, et. 1999

Strategic Energy Plan of Japan 6th Edition

White Paper of Energy in Japan 2023 (Japanese)

History of Policy by Ministry of International Trade and Industry(MITI)-Energy Policy(Japanese)

Energy & Security-strategies for a world in transition, Jan H. Kalicki/David L. Goldwyn

Energy Security in the Era of Climate Change: The Asia-Pacific Experience, Luca Anceschi, Jonathan Symons

5. 講義で使用するソフトウェア：

6. 聴講の可否：

否 Not Allow

7. 履修上の注意：

Students is expected to take the course Outline of Energy Policy, Energy Policy in Japan and/or Energy and Environmental Science and Technology in advance.

